

平成 29 年度事業報告書

平成 30 年 5 月

横浜市立みなと赤十字病院

目 次

1	概要	1
1-1	施設概要	
1-2	建物図	
1-3	施設基準取得状況	
2	政策的医療	9
2-1	24時間365日の救急医療及び2次救急医療	
2-2	小児救急医療	
2-3	周産期救急医療	
2-4	精神科救急医療	
2-5	精神科身体合併症医療	
2-6	緩和ケア医療	
2-7	アレルギー疾患医療	
2-8	障害児者合併症医療	
2-9	災害時医療	
2-10	市民の健康危機への対応	
3	指定管理者独自の取組み	26
3-1	入院支援センター	
3-2	健診センター	
4	地域医療の質の向上に向けた取組み	31
4-1	医療における安全管理（安全）	
4-2	医療における安全管理（感染）	
4-3	医療倫理に基づく医療の提供	
4-4	地域医療機関との連携・支援（医療連携課）	
4-5	地域医療機関との連携・支援（療養・福祉相談室）	
4-6	市民委員会	
4-7	治験・受託研究	
4-8	患者・市民に対する相談・啓発活動	
4-9	患者サービス	
4-10	医療データベースの構築と情報提供	

5	職員研修	58
5-1	職員研修（医師）	
5-2	職員研修（看護部）	
5-3	職員研修（薬剤部）	
5-4	職員研修（医療技術部門）	
5-5	職員研修（事務部）	
6	院外からの研修受入れ	69
6-1	院外からの研修受入れ（看護部）	
6-2	院外からの研修受入れ（薬剤部）	
6-3	院外からの研修受入れ（リハビリテーション科部）	
7	職員	75
7-1	組織図	
7-2	職員配置状況	
8	施設管理	78
8-1	医療機器の整備状況	
8-2	施設設備改修報告	
8-3	施設設備管理報告	
8-4	外部委託	
9	経営報告	84
9-1	稼働状況等報告	
9-2	中央部門業務報告	
9-3	決算書	

1 概要

1-1 施設概要

1 名称

横浜市立みなと赤十字病院

2 開設者

横浜市長（指定管理者として日本赤十字社が運営）

3 開設年月日

平成 17 年 4 月 1 日

4 病床数

634 床（一般 584 床、精神 50 床）

5 標榜科

内科、内分泌内科、血液内科、腎臓内科、リウマチ科、緩和ケア内科、呼吸器内科、消化器内科、肝臓内科、循環器内科、神経内科、アレルギー科、精神科、小児科、外科、消化器外科、大腸外科、肝臓外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、歯科口腔外科、救急科、病理診断科

以上 36 科

6 沿革

- ・平成 15 年 3 月 横浜市立病院あり方検討委員会（横浜市長の諮問機関）が新病院を公設民営とする最終答申を提出
- ・平成 15 年 9 月 横浜市会で新病院運営の公設民営化を決定
- ・平成 15 年 11 月 横浜市が指定管理者評価委員会を設置
日本赤十字社が指定管理者提案申込書を横浜市に提出
- ・平成 16 年 1 月 評価委員会が提案書による競争の結果として、「指定管理者として日本赤十字社がふさわしい」との評価報告書を市長に提出
- ・平成 16 年 2 月 横浜市会で日本赤十字社を指定管理者として決定
- ・平成 16 年 9 月 横浜市会で新病院名称を「横浜市立みなと赤十字病院」に決定
- ・平成 17 年 4 月 横浜市立みなと赤十字病院が開院 初代院長 西岡 清
病床数 584 床、23 診療科
瀬谷区にあった横浜市小児アレルギーセンター（平成

- 17年3月31日閉院)の機能を移転
- ・平成18年4月 精神科診療開始(入院は平成19年5月から)
 - ・平成18年9月 地域医療機関向け広報誌「みなとからの風」発刊
 - ・平成19年3月 病院機能評価 Ver5.0 取得
 - ・平成19年5月 精神科50床運営開始、病床数634床
 - ・平成19年7月 新潟県中越沖地震発生、救護班派遣
 - ・平成21年2月 地域医療支援病院承認
 - ・平成21年4月 救命救急センターの指定
 - ・平成22年3月 神奈川県 DMAT 指定病院
 - ・平成22年7月 第2代院長 四宮 謙一 就任
 - ・平成23年3月 東日本大震災発生、救護班・神奈川 DMAT 派遣
災害備蓄倉庫竣工
 - ・平成23年5月 病院広報誌「みなと赤十字病院だより」発刊
 - ・平成23年11月 がんセンター、がん相談支援センター開設
 - ・平成24年3月 病院機能評価 Ver6.0 取得
 - ・平成24年4月 地域がん診療連携拠点病院の指定
 - ・平成24年7月 地域周産期母子医療センターの認定
 - ・平成24年11月 病院広報誌リニューアル「みんなのみなと」発刊
 - ・平成25年1月 PET/CT 導入
 - ・平成25年4月 標榜科を23診療科から36診療科へ細分化
 - ・平成26年2月 手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」導入
 - ・平成26年3月 神奈川県 DMAT-L 指定病院
 - ・平成26年11月 海難事故や災害時に、当院ヘリポートの使用を第三管区
海上保安本部と合意
 - ・平成27年4月 臨床試験支援センター開設
リハビリテーションセンター開設
外傷センター開設
心臓病センター開設
 - ・平成27年9月 平成27年9月関東・東北豪雨発生、救護班・神奈川 DMAT
派遣
 - ・平成27年10月 カスタマーリレーションセンター開設
新MRI導入(Philips社製 Ingenia 3.0T CX)
 - ・平成28年4月 平成28年4月熊本地震発生、救護班派遣
 - ・平成28年5月 東京国際空港(羽田空港)大韓航空機火災事故に救護班を
派遣
 - ・平成29年3月 病院機能評価(一般病院2 3rdG: Ver1.1)取得
 - ・平成29年4月 第3代院長 野田 政樹 就任
入院支援センター開設

- ・平成 29 年 6 月 人間ドック健診施設機能評価 (Ver3.0) 取得
- ・平成 30 年 3 月 ハイブリッド手術室を整備 (既存手術室を改修)
DSA (血管造影装置) 設置 (キャノンメディカルシステムズ製 Infinix Celeve-I INFX-8000V)

1 - 2 建物図

8階	病棟 コンシェルジュデスク
7階	A病棟 B病棟 C病棟 D病棟
6階	A病棟 B病棟 C病棟 D病棟 患者図書室
5階	A病棟 C病棟 D病棟 NICU 透析室 精神科外来 めまい・平衡神経科外来 化学療法センター 臨床教育研修センター スキルラボ 理容室 コンビニエンスストア
4階	電気室・機械室
3階	管理部門（院長室 副院長室 看護部長室 事務部長室） 救急病棟 ICU HCU CCU 手術室（内、ハイブリッド手術室1室） 心臓カテーテル室 医局 医局図書室 看護部 事務部 医療情報センター 会議室
2階	健診センター アレルギーセンター 緩和ケアセンター 乳腺外科外来 放射線科（X線撮影 CT MRI 血管撮影 心臓カテーテル） 内視鏡検査室 検査部（検体 輸血 病理 細菌） 調度課・SPD ME 栄養課 調理室
1階	総合内科（内分泌内科、リウマチ科、血液内科） 消化器内科 外科 心臓病センター（循環器内科、 心臓血管外科） 脳神経センター（神経内科、脳神経外科） 麻酔科 呼吸器病センター（呼吸器内 科・呼吸器外科） 整形外科 泌尿器科 皮膚科 腎臓内科 耳鼻いんこう科 眼科 小児科 産婦人科 形成外科 歯科口腔外科 リハビリテーションセンター 薬剤部 中央検査（採血 尿検査 心電図 超音波 筋電図 脳波） 救急外来（受付 診察室 処置室 X線撮影 CT） 総合案内 療養・福祉相談室 医療連携センター 入院支援センター 栄養指導室 初診受付 再診受付 再来受付コーナー 証明書発行受付 中央待合ホール 自動精算機 入院業務課 外来業務課 正面入口 時間外入口 緩和ケアセンター入口 防災センター レストラン カフェ コンビニエンスストア ATM
B1階	放射線科（RI リニアック PET/CT） 地下出入口 地下駐車場 霊安室 職員食堂
B2階	免震ピット

1-3 施設基準取得状況

1 基本診療科

地域歯科診療支援病院歯科初診料 歯科外来診療環境体制加算
歯科診療特別対応連携加算 一般病棟入院基本料（7対1）
総合入院体制加算1 超急性期脳卒中加算
診療録管理体制加算1 医師事務作業補助体制加算2（50対1）
看護職員夜間配置加算（16対1）療養環境加算 重症者等療養環境特別加算
無菌治療室管理加算1 精神科応急入院施設管理加算 精神科リエゾンチーム加算
摂食障害入院医療管理加算 栄養サポートチーム加算 医療安全対策加算1
感染防止対策加算1 患者サポート体制充実加算 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
ハイリスク妊娠管理加算 ハイリスク分娩管理加算
精神科救急搬送患者地域連携紹介加算 呼吸ケアチーム加算
病棟薬剤業務実施加算1 病棟薬剤業務実施加算2 データ提出加算2
退院支援加算1、3 精神疾患診療体制加算 地域歯科診療支援病院入院加算
救命救急入院料1 特定集中治療室管理料1 ハイケアユニット入院医療管理料1
小児入院医療管理料4 緩和ケア病棟入院料 精神科救急・合併症入院料

2 特掲診療料

糖尿病合併症管理料 がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料1 がん患者指導管理料2 がん患者指導管理料3
糖尿病透析予防指導管理料 地域連携小児夜間・休日診療料2
院内トリアージ実施料 外来放射線照射診療料 ニコチン依存症管理料
開放型病院共同指導料 ハイリスク妊産婦共同管理料（I）
がん治療連携計画策定料 肝炎インターフェロン治療計画面料 薬剤管理指導料
医療機器安全管理料1 医療機器安全管理料2 医療機器安全管理料（歯科）
歯科治療総合医療管理料 持続血糖測定器加算
HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
検体検査管理加算I 検体検査管理加算II
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
時間内歩行試験およびシャトルウォーキングテスト
胎児心エコー法 ヘッドアップティルト試験 皮下連続式グルコース測定
長期継続頭蓋内脳波検査 神経学的検査 ロービジョン検査判断料
小児食物アレルギー負荷検査 内服・点滴誘発試験
センチネルリンパ節生検（片側） 有床義歯咀嚼機能検査 画像診断管理加算1
ポジトロン断層撮影 ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
CT撮影及びMRI撮影 抗悪性腫瘍剤処方管理加算 外来化学療法加算1
無菌製剤処理科2 心大血管疾患リハビリテーション科（I）
脳血管疾患等リハビリテーション料（I） 運動器リハビリテーション料（I）

呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ） がん患者リハビリテーション料
 歯科口腔リハビリテーション料2
 抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）
 医療保護入院等診療料
 処置の休日加算1、処置の時間外加算1及び処置の深夜加算1
 透析液水質確保加算1 下肢末梢動脈疾患指導管理加算
 手術用顕微鏡加算 CAD/CAM冠
 皮膚悪性腫瘍切除術（悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。）
 組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合に限る。）
 脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術
 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
 乳腺悪性腫瘍手術（乳がんセンチネルリンパ節加算1及び又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。）
 乳腺悪性腫瘍手術（乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの）
 ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
 経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの） 経皮的中隔心筋焼灼術 ペ
 ースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
 植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極拔去術
 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
 大動脈バルーンパンピング法（IABP法） 胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。） 体外衝撃波胆石破砕術
 腹腔鏡下肝切除術 体外衝撃波膵石破砕術 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
 膀胱水圧拡張術 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
 人工尿道括約筋植込・置換術
 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術支援機器を用いるもの）
 腹腔鏡下仙骨腔固定術 手術の休日加算1、時間外加算1及び手術の深夜加算1
 胃瘻造設術（内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下造設術を含む。）
 輸血管管理料Ⅰ 輸血適正使用加算 自己生体組織接着剤作成術
 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
 歯周組織再生誘導手術 広範囲顎骨支持型装置埋入手術 歯根端切除手術の注3
 麻酔管理料（Ⅰ） 麻酔管理料（Ⅱ） 放射線治療専任加算 外来放射線治療加算
 高エネルギー放射線治療 1回線量増加加算 画像誘導放射線治療加算（IGRT）
 体外照射呼吸性移動対策加算 定位放射線治療
 定位放射線治療呼吸性移動対策加算 病理診断管理加算1
 クラウン・ブリッジ維持管理料

3 入院時食事療養

入院時食事療養Ⅰ 特別食加算 食堂加算

4 評価療養

先進医療（超音波骨折治療法） 医薬品の治験に係る診療

医療機器の治験に係る診療

医薬品医療機器等法に基づく承認又は認証を受けた医療機器又は体外診断用医薬品

5 選定療養

病床数が200床以上の病院について受けた初診・再診（医科・歯科）

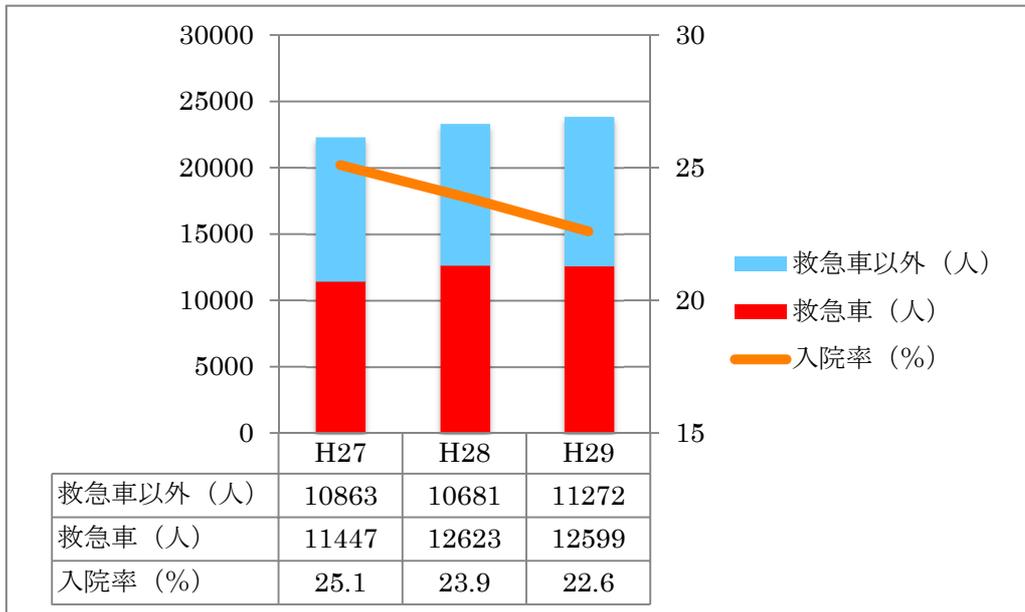
特別の療養環境の提供 入院期間が180日を超える入院

2 政策的医療

2-1 24時間365日の救急医療

1 データ

来院経路別救急患者数と入院率



2 成果

救急車による受入患者数は、年間 12000 名以上と、依然全国トップクラスの実績である。特記すべきは、救急車要請の断り率が 1.2%と昨年の 0.9%と変わらない低い率を維持していることである。「断らない救急」がほぼ浸透してきたと言える。救急車以外の受診患者数は横ばいであった。救急患者全体の入院率は漸減傾向にあり、今後も注目したい。

3 課題

救急患者を断らないことは、地域医療のセーフティネットとしてきわめて重要と考えている。しかし、他院で断られる患者は、独居・貧困などのいわゆる社会的弱者であったり、アルコール酩酊などの問題を抱えている例が多いことも事実である。職員への暴力・暴言・迷惑行為が後を絶たないことも問題である。

2-2 小児救急医療

1 データ・成果

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
小児科救急患者数	3,369 件	3,314 件	3,076 件	3,713 件
うち、入院患者数	447 件	489 件	410 件	346 件
救急車受入件数	675 件	740 件	879 件	990 件
新入院患者数	1,345 人	1,296 人	1,106 人	1,147 人
児童虐待防止委員会	定例会 1 回 臨時 12 回	定例会 1 回 臨時 3 回	定例会 2 回 臨時 3 回	定例会 1 回 臨時 4 回

平成 29 年度、小児救急患者数は増加したものの、近年の傾向として救急患者数の減少は予防接種の普及による急性疾患の減少によるものである。一方、救急車受入数は増加している。小児の疾病構造が変化したことが報告されているが、地域の小児救急患者には適切に対応している。

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29 年度
新生児搬送受入数	18	12	13	4	7	7	12	6

神奈川県周産期医療体制整備計画等により横浜市内の NICU は充足している。また、総合周産期母子医療センター（基幹病院）の NICU 増床もあり、基幹病院で受入困難な新生児搬送は減少している。基幹病院の NICU に余裕があるため基幹病院から中核病院へのバックトランスファーも減少していると考えられる（数字は県が把握）。さらに産科の分娩制限が加わり、当院の NICU 利用率は極端に低下している。

救急患者は減少しているが、地域では支援が必要な家庭は増加していると推定されている。不適切な療育が疑われる受診には、医療社会事業課を通じ、在住区への情報提供を行っている。

2 課題

予防接種の普及、少子化による小児急性期疾患患者の減少は今後も続くことが予想される。最近の統計では、この 10 年で 20% は減少している。小児科における 24 時間、365 日の小児救急対応に必要なマンパワーには変わりはないが、患者数の減少による収益減少への対応が課題である。

2-3 周産期救急医療

1 データ

周産期救急医療は主に母体搬送、新生児搬送に関わる事である。また、未受診妊婦のいわゆる飛び込み分娩、自宅分娩、なども含まれる。また、精神疾患、身体疾患合併妊婦の妊娠中期以降、必要時からの受け入れも病病連携または病診連携として行っており、これは広義の周産期救急に当てはまる。

当院の周産期担当（産婦人科、小児科）は「横浜市民が安心して分娩できる環境を整えることで、地域の周産期医療に貢献する」という目標を掲げ、診療にあたっている。

平成 24 年 7 月 25 日付で当院は地域周産期母子医療センターに指定され、産科と小児科（NICU）の協力のもと、他の産科施設からの母体搬送の受け入れを中心として、周産期に係る比較的高度な医療行為を行うことができる医療施設として横浜市の周産期医療の一翼を担っている。

なお、母体搬送受け入れの基準は妊娠 34 週以降、推定体重 1500g 以上としている。

<母体搬送受け入れ数>

平成 25 年度 19 例

平成 26 年度 23 例

平成 27 年度 24 例

平成 28 年度 9 例

平成 29 年度 10 例

<飛び込み分娩数>

平成 25 年度 1 例

平成 26 年度 1 例

平成 27 年度 1 例

平成 28 年度 1 例

平成 29 年度 0 例

<分娩総数>

平成 25 年度 958 例

平成 26 年度 1071 例

平成 27 年度 964 例

平成 28 年度 783 例

平成 29 年度 573 例

2 成果

分娩総数は 600 件前後である。常勤医師 6 名（うち 1 名は当直なし）で、月平均 50 例の分娩を取り扱っている。

産科は 24 時間 365 日の体制で当直を組み、緊急手術もいつでも対応できる体制をとっている。これには、産科、小児科のみならず、手術室、麻酔科も協力の上で成り立っている事である。

「横浜市民が安心して分娩できる環境を整えることで、地域の周産期医療に貢献する」という、事業目標はおおむね達成していると考える。

3 課題

慢性的な医師不足により分娩制限を行う必要がある。ハード面、医師数、助産師数から安全面を考慮し限界がある。次年度以降の取り組みとしては、この点の改善を図り、将来的な分娩数の増加が安全が確保されたうえで可能となるような体制を作る必要がある。そのためには、産科常勤医師 10 名以上、麻酔科当直体制などが必要である。依然として産科常勤医師を安定的に確保する見通しは立っておらず、大学からの医師派遣と、後期研修医の就職と教育が必要である。助産師については、安定して確保しているものの、分娩数の増加に対応し、安全な分娩を行うためには、より多くの助産師を確保することが望まれる。

また、無痛分娩、院内助産などはすでに施行しているが、更に充実させることにより分娩の質の向上、満足度の向上も図りたい。

2-4 精神科救急医療

1 データ

平成 29 年度実績(※平成 30 年 3 月 31 日時点)

	受け入れ数		入院形態			転帰		
	受診数	入院数	措置	医保	任意	転院	退院	その他
3 次救急	37	30	30	0	0	24	4	2
2 次救急	11	11	—	11	0	10	1	0

・平均在院日数:26.8 日 (院内後方を除いた平均在院日数:22.2 日)

精神科救急受診数の推移 (年度別)

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
3 次救急	35	42	39	51	44	26	31	34	37
2 次救急	19	12	9	7	9	13	13	14	11

2 成果

- ・実施要項に準じて人員を配置し、精神科救急医療を滞りなく行えた。
- ・政策医療とは別に、自殺企図例などで救急病棟より精神科病棟に入院する例もある。

3 課題

- ・平均在院日数がやや長い。
→速やかな後方転送を目指し、精神症状のコントロールに努め、円滑な転院に向けての働きかけを行う。
- ・年度により精神科医師に欠員がでることがこれまでもあったが、今年度は指定医 3 名という体制で指定医の業務負担が過大であった。準夜帯待機しているにも関わらず患者が来院しない場合も多く、基幹病院においても準夜帯を輪番制にするなど、精神科救急体制の見直しが必要ではないかを感じる。
- ・救急部を受診したが身体的な問題はなく、精神症状のみ入院適応がある患者がいる。当院の精神科病棟が満床の場合に、受け入れ先の調整に苦慮することがある。

2-5 精神科身体合併症医療

1 データ

		H27 年度	H28 年度	H29 年度
身体合併症事業計		105	128	130
当院受入数		84	111	90
入院数		64	89	62
平均在院日数		19.1	21.1	16.2
転 帰	依頼元病院	57	74	56
	他病院	3	5	2
	退院	1	2	2
	入院中	0	0	1
	死亡	3	8	1

2 成果

- ・平成 20 年度以降、当院の年間の受け入れ数は身体合併症転院事業の 7-8 割にあたるが、平成 29 年度は他院での受け入れが増えたためか 69%に留まった。ベッドコントロールを行い、断ることなく受け入れることが出来ている。
- ・この他、時間外に行政を介さずに受け入れた症例もある。

3 課題

- ・引き続き、身体科医師の協力体制のもとで同事業を円滑に進める。
- ・より多くの患者に必要な医療を提供できるよう、入院期間ができるだけ短期間となるよう心がける。

2-6 緩和ケア医療

1 データ

(1) 緩和ケア病棟実績

		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
入院患者	実数	287 名	262 名	295 名
	延べ数	7500 名	7951 名	7555 名
	緊急入院数	17 名	10 名	28 名
平均在院日数		26.2 日	30.3 日	25.6 日
患者実数	男	169 名	151 名	150 名
	女	118 名	111 名	145 名
平均年齢		72.5 歳	72.9 歳	71.8 歳
	退院	267 名	263 名	295 名
退院内訳	死亡	234 名	237 名	274 名
稼働率		82.2%	87.1%	82.8%
緩和ケア病棟への入院経路	院内転棟	148 名	110 名	112 名
	市内医療機関からの紹介	139 名	150 名	130 名
ボランティア延べ人数		72 名	123 名	59 名

(2) 緩和ケアチーム実績

		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
緩和ケアチームへの依頼数	新規	144 件	160 件	173 件
	継続	5 件	5 件	5 件
	延べ件数	2178 件	2314 件	1618 件
麻薬管理加算		123 名	118 名	145 件
入院精神療法加算		27 名	25 名	18 件

緩和ケアチームへの依頼内容

疼痛・嘔気・呼吸困難などの身体ケアが 94%

せん妄・抑うつ・不眠などの精神的ケアが 5%

2 成果

- ・現在、緩和ケア内科医 2 名で、緩和ケア病棟、緩和ケアチーム、緩和ケア外来を運営している。
- ・緩和ケア病棟においては、緩和ケア内科医が全ての患者の主治医となり、病棟スタッフと連携して患者・家族に寄り添って均一的な病棟運営を行った。
- ・病棟稼働率は 82.8%であった。
- ・神奈川県がん診療連携協議会の緩和ケア部会に参加し、他の病院とのピアレビューも行い、緩和ケアの質の向上、他の病院との連携を得られた。
- ・県内でも少ない専門医の応援をもらい、病棟・チーム・外来での知識、技術、連携の向上を目指している。
- ・苦痛のスクリーニングでは、対象の拡大を図っているが、乳癌のほぼ全患者にも広げた。
- ・院内での緩和ケアの普及のため、院内・院外スタッフの協力を得て、緩和ケア研修会を平成 29 年 7 月に開催した。
- ・緩和ケア講演会を平成 30 年 1 月に開催し、緩和ケアの啓蒙・普及に貢献した。
- ・横浜・川崎病病連携会の下部組織として、緩和ケアを行う 7 病院が集って、「横浜みんなの緩和ケア勉強会」を、平成 29 年 6 月と平成 30 年 2 月に 2 回、共同開催し、ワークショップを含め、知識の向上と、交流を図った。

3 課題

- ・緩和ケア病棟の安定した運営を目指す。
- ・緩和ケアの啓蒙・普及のため、緩和ケア病棟入院相談外来と緩和ケアチーム介入時に各科主治医とのミニカンファレンスを増やすとともに、緩和ケア研修会を通し、がん診療に携わるすべての医療スタッフの基本的緩和ケアの知識の普及を目指す。
- ・すべての入院がん患者の苦痛の発見、対応を目指し、苦痛のスクリーニングの対象をさらに拡大していく。
- ・神奈川県がん診療連携協議会緩和ケア部会の他の参加病院との連携を深めながら、専門的緩和ケアへのアクセスの改善を目指す。
- ・研修会、講演会、勉強会等の開催を通し、緩和ケアの啓蒙、普及に引き続き貢献する。
- ・患者の入退院を通して情報交換を行い、連携する地域の医療機関の拡大を図るとともに、それぞれの機関との絆がさらに深まることを目指す。
- ・院内外医療機関との連携の下、在宅医療と入院において、切れ目のない医療が提供できるよう、チーム医療の充実を図る。

2-7 アレルギー疾患医療

1 データ(平成27~29年比較)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
外来アレルギー患者数(延べ数)	18,540人	20,217人	22,683人
呼気一酸化窒素測定	3,718件	4,201件	3,969件
気道過敏性試験	82件	111件	117件
プリックテスト	162件	223件	216件
エピペン処方数	316件	282件	308件
喘息カンファレンス	5回	6回	6回
食物・薬物アレルギーカンファレンス	6回	6回	6回
食物アレルギー研修	38回	26回	42回
講演会	4回	3回	3回
みなとセミナー	2回	4回	2回
市民フォーラム	2回	2回	2回
患者教室	11回	11回	11回
小児喘息キャンプ	1回	1回	1回
誌上発表	19件	18件	25件
学会発表	29件	26件	36件
新薬開発治験	13件	17件	17件
自主臨床試験	30件	31件	20件

2 成果

市民への相談・情報提供、啓発活動については、前年度とほぼ同様の成果となった。保育所や学校等の職員に対する食物アレルギー指導研修業務の拡大のために、アレルギー専門小児科医師3名の協力を確保し、依頼元からの要望に柔軟に対応した。臨床研究については、継続中のARMS研究(遠隔医療)とEARTH研究(環境アレルギー)の組み合わせによる「個別喘息予報」を28年度より配信開始し、患者さんの個別データをさらに活用できるよう取組みを進めている。診療については、アレルギー科常勤医師の増員により患者数の増加に繋がった。地域医療連携についても舌下免疫療法を目的とした病診連携会による連携を図ることができた。

3 課題

日本専門医機構の指導により来年度に開始予定の新専門医制度下、アレルギーセンターがアレルギー専門医研修基幹施設に認定されるべく、引き続きアレルギー科、呼吸器内科、皮膚科、耳鼻咽喉科、リウマチ内科のアレルギー専門医・指導医、リウマチ専門医・指導医の確保と育成に努める必要がある。

2-8 障害児者合併症医療

1 データ

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
入院患者延べ人数	260名	102名	202名	181名
入院患者実人数	12名	12名	9名	11名
1患者あたり入院回数	1～5回	1～4回	1～8回	1～9回
年齢	2～40歳	5～39歳	4～37歳	2～27歳
メディカルショートステイ利用者数	9名	8名	14名	14名
障害児者委員会	年4回 開催	年3回 開催	年3回 開催	年3回 開催

2 成果

当院において行われる障害児者への医療提供が円滑に行われることを目的とし、障害児者医療検討委員会を開催し、その内容を検討した。

また、院内の障害児者医療の啓蒙のため研修会を実施、横浜医療福祉センター港南の根津先生に講演を賜った。

3 現状と課題

旧横浜市立港湾病院からの継続医療患者への適切な医療の提供、障害児者医療への職員の研修啓発に努める。また、地域の障害児者医療を担う医療機関との連携を図っていく。

横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステムの協力病院として対象患者の受け入れを継続する。

2-9 災害時医療

1 救護活動等の状況

(1) 医療救護班の派遣状況

平成 29 年度は、救護班、DMAT 等の災害への派遣は無かった。

横浜救急医療チーム (YMAT) は、横浜市内の救急・事故事案等に 13 件出動した。

(2) 災害救護に関する訓練・研修会等への実施・参加状況

開催日	訓練・研修会	会場	参加者
4/27	関東臨床工学技士協議会災害時情報受伝達訓練	横浜市立みなと赤十字病院	透析室職員 14 名 (腎臓内科医師 4 名、看護師 4 名、臨床工学技士 6 名)、救急災害業務課員 2 名
6/8~10	日本 DMAT 隊員養成研修	国立病院機構大阪医療センター	看護師 1 名
6/12	神奈川県災害通信訓練及び院内通信訓練	横浜市立みなと赤十字病院	事務系職員 13 名
6/15	赤十字救護班主事研修会 BASIC (救護班主事コース)	日本赤十字社神奈川県支部	作業療法士 1 名、心理判定員 1 名、臨床工学技士 1 名、薬剤師 1 名、事務系職員 8 名
6/19 ~ 21	日本 DMAT 隊員養成研修会	国立病院機構災害医療センター	医師 1 名 (コントローラー)
6/28	レベル II 災害救護コース研修会 (1 回目)	横浜市立みなと赤十字病院	看護師 59 名
7/11	神奈川県災害通信訓練及び院内通信訓練	横浜市立みなと赤十字病院	事務系職員 11 名
7/24	救急車・トラック等運転技術研修会	伊勢原自動車学校	臨床検査技師 1 名、事務系職員 4 名
7/29	大規模地震時医療活動訓練	三重県	医師 1 名
8/14	神奈川県災害通信訓練及び院内通信訓練	横浜市立みなと赤十字病院	事務系職員 5 名
8/27	九都県市合同防災訓練 (川崎会場)	あさおふれあいの広場	救護班 1 班 (医師 1 名、看護師 3 名、主事 2 名)
8/28 ~ 29	横浜市消防局ヘリ離着陸訓練	横浜市立みなと赤十字病院ヘリポート	救急災害業務課員
8/29	レベル II 災害救護コース研修会 (2 回目)	横浜市立みなと赤十字病院	看護師 57 名
9/1	九都県市合同防災訓練 (神奈川県会場)	厚木航空基地、酒匂川スポーツ広場	DMAT1 チーム (医師 1 名、看護師 1 名、業務調整員 1 名)、医師 1 名 (コントローラー)

9/1	九都県市合同防災訓練 (横浜会場)	日野中央公園	救護班1班(医師1名、看護師3名、主事2名)
9/1	日本透析医会災害時情報受伝達訓練	横浜市立みなと赤十字病院	透析室職員10名(腎臓内科医師3名、看護師3名、臨床工学技士4名)、救急災害業務課員2名
9/6	横浜市透析医療機関情報受伝達訓練	横浜市立みなと赤十字病院	透析室職員8名(腎臓内科医師1名、看護師3名、臨床工学技士4名)、救急災害業務課員2名
9/11	神奈川県災害通信訓練及び院内通信訓練	横浜市立みなと赤十字病院	事務系職員5名
9/26	神奈川県国民保護研修会	神奈川県庁第二分庁舎	看護師1名、事務系職員1名
9/27	平成29年度第1回透析室防災机上訓練	横浜市立みなと赤十字病院	透析室職員6名(腎臓内科医師2名、看護師2名、臨床工学技士2名)、救急災害業務課員1名
10/11	神奈川県災害通信訓練及び院内通信訓練	横浜市立みなと赤十字病院	事務系職員11名
10/26	航空機事故対処訓練	東京国際空港(羽田空港)	救護班1班(医師1名、看護師3名、主事2名)
11/3~4	災害医療救護通信エキスパート研修(上級)	東京臨海広域防災公園本部棟	事務系職員1名
11/7	日本赤十字社神奈川県支部救護班要員教育訓練Ⅰ	日本赤十字社神奈川県支部	救護班1班(医師1名、看護師3名、薬剤師1名、主事2名)
11/7	神奈川県津波防災の日に係る情報受伝達訓練	横浜市立みなと赤十字病院	事務系職員19名
11/7	津波対策設備操作訓練	横浜市立みなと赤十字病院	事務系職員19名
11/9	神奈川県国民保護共同実動訓練	湘南鎌倉病院	救護班主事2名
11/13	災害対策本部設置・報告訓練	横浜市立みなと赤十字病院	全部署
11/16~17	日本赤十字社神奈川県支部救護班要員教育訓練Ⅱ	いこいの村あしがら	救護班1班(医師1名、看護師3名、薬剤師1名、主事2名)
11/20	中消防署負傷者多数発生(テロ)対応訓練	横浜文化体育館	YMAT1チーム(医師2名、看護師2名)、医師1名(コントローラー)
11/22	神奈川県・医療機関の災害時医療情報伝達訓練	横浜市立みなと赤十字病院	事務系職員4名

11/23～ 25	日本 DMAT 隊員養成研修会	国立病院機構大阪医療センター	業務調整員 1 名
11/24	レベルⅡ災害救護コース研修会（3 回目）	横浜市立みなと赤十字病院	看護師 54 名
11/28	平成 29 年度第 1 回透析室防災机上訓練	横浜市立みなと赤十字病院	透析室職員 18 名（腎臓内科医師 5 名、看護師 4 名、臨床工学技士 9 名）、救急災害業務課 2 名
11/30	飛行場外離着陸場における航空消防隊との連携訓練	根岸森林公園	救急災害業務課員 2 名
12/6	横浜港旅客船事故対応訓練	旅客船マリンルージュ、横浜会場防災基地等	救護班 1 班（医師 1 名、看護師 3 名、主事 4 名）、医師 1 名（検証）
12/9	総合防災訓練	横浜市立みなと赤十字病院	医師 14 名、看護師 54 名、メディカルスタッフ 12 名、事務系部門 93 名、ボランティア 35 名 合計 208 名
12/11	神奈川県災害通信訓練及び院内通信訓練	横浜市立みなと赤十字病院	事務系職員 6 名
12/12	救護看護師養成研修会Ⅰ	日本赤十字社神奈川県支部	看護師 8 名
1/11	神奈川県災害通信訓練及び院内通信訓練	横浜市立みなと赤十字病院	事務系職員 7 名
1/11	救護看護師養成研修会Ⅱ	日本赤十字社神奈川県支部	看護師 8 名
1/13 ～ 14	神奈川 DMAT-L 隊員養成研修会	横浜労災看護専門学校	医師 1 名、看護師 2 名、業務調整員 2 名
1/20 ～ 21	かながわ DPAT 研修	日本丸訓練センター	医師 1 名、看護師 2 名、業務調整員 2 名
2/8	救護員対象こころのケア研修会	日本赤十字社神奈川県支部	医師 1 名、看護師 16 名、薬剤師 2 名、臨床検査技師 1 名、事務系職員 2 名
2/10 ～ 11	日本 DMAT 関東ブロック訓練	茨城県	医師 1 名（コントローラー）
2/13	神奈川県災害通信訓練及び院内通信訓練	横浜市立みなと赤十字病院	事務系職員 10 名
2/15	救護班主事研修会 ADVANCE（連絡調整員コース）	日本赤十字社神奈川県支部	薬剤師 1 名、臨床検査技師 1 名、診療放射線技師 1 名、事務系職員 5 名
2/17 ～ 19	全国赤十字救護班研修会	日本赤十字社本社	医師 1 名

2/21	中消防署地下鉄駅爆破 (テロ) 災害関係機関 合同検討会	中消防署	医師 1 名、事務系職員 1 名
3/5	中区帰宅困難者対策訓 練	JR 関内駅、開港記念会館	事務系職員 1 名
3/8~9	日本 DMAT 隊員技能維持 研修会	内閣府災害対策本部予備施 設	看護師 1 名
3/12	神奈川県災害通信訓練 及び院内通信訓練	横浜市立みなと赤十字病院	事務系職員 4 名
3/13	大型旅客船事案対応訓 練	旅客船飛鳥Ⅱ、巡視船いず、 横浜海上防災基地等	救護班 1 班 (医師 2 名、看 護師 3 名、主事 4 名)、医 師 1 名 (検証)
3/22	透析室防災実動訓練	横浜市立みなと赤十字病院	透析室職員 13 名 (腎臓 内科医師 5 名、看護師 4 名、 臨床工学技士 4 名)、救急 災害業務課員 1 名、施設課 員 1 名

(3) 救護体制及び主要資機材

①医療救護班

- ・ 救護班 7 班 (医師 7 名、看護師 21 名、薬剤師 7 名、主事 14 名)
- ・ 日本 DMAT 2 チーム^{注1} (医師 2 名、看護師 5 名、業務調整員 3 名)
- ・ 神奈川 DMAT-L 3 チーム^{注2} (医師 7 名、看護師 7 名、業務調整員 5 名)
- ・ かながわ DPAT (神奈川県災害派遣精神医療チーム) 1 チーム^{注3} (医師 1 名、看
護師 4 名、業務調整員 3 名)
- ・ YMAT (横浜救急医療チーム) 隊員 13 名 (医師 9 名、看護師 4 名)

※注 1 : 日本 DMAT のチーム数は、日本 DMAT 活動要領の「DMAT1 隊の構成は、医
師 1 名、看護師 2 名、業務調整員 1 名の 4 名」に基づき、同時に編成が可能
なチーム数。

※注 2 : 神奈川 DMAT-L のチーム数は、神奈川 DMAT-L 運営要綱の「医師、看護師、
業務調整員からなる 1 チーム 5 人編成を基本とする。」に基づき、各職種最
低 1 名以上で同時に編成が可能なチーム数。

※注 3 : かながわ DPAT のチーム数は、かながわ DPAT 運営要綱の「医師 1 名、保健
師又は看護師 1 名以上及び業務調整員等からなる 1 チーム 3~5 人編成を基本
とする。」に基づき、各職種 1 名・1 チーム 3 名編成で同時に編成が可能なチ
ーム数。

②救護資機材等

救急車 2 台、医師派遣用緊急車両 1 台、救護班用医療セット 1 式、DMAT 標準医療資
機材 1 式、YMAT 資機材 1 式、日赤業務無線機等 22 台、神奈川県 MCA 無線 1 台、横
浜市 MCA 無線 1 台、衛星電話 1 台 (庁舎設置)、衛星携帯電話 2 台、(可搬型 1 台、
救急車積載 1 台)、デジタル個人線量計 28 台、簡易ベッド 540 台、NBC 災害除染セッ
ト 1 式、ドラッシュテント 1 式、エアーテント 1 式、イージーアップテント 2 式、発

動発電機 7 台、災害用マンホールトイレ 2 基、下水直結型災害用トイレ 5 基、患者用非常食 3 日分、職員用非常食 3 日分

2 成果

- ・ 救急・災害医療への対応を強化するため、平成 28 年 6 月に救急災害業務課を新設し、これまで総務課社会係と入院業務課救急係が担当していた救急と災害に関する業務を一元化し、救急・災害に関する業務に横断的に取り組んでいる。
- ・ 災害マニュアル及びアクションカードの改訂を行った。
- ・ ヘリ搬送の受け入れをより安全に実施するため、ヘリ搬送対応マニュアルの改訂を行った。
- ・ 救護班、DMAT 等に登録された救護業務に従事する職員を対象に、破傷風予防接種を実施した。
- ・ 当院のヘリポートは 24 時間 365 日の運用としている。第三管区海上保安本部とは海上保安庁ヘリコプターによる救急患者直接搬送の運用を実施しており、10 月 26 日の 22 時 13 分に、航行中の船舶で発生した救急患者のヘリ搬送を受け入れた。
- ・ 平成 29 年 2 月から、横浜市消防局ヘリコプターで日没間際等で地上救急隊への引継ぎが困難な救急患者の搬送について、当院ヘリポートへの直接搬送の運用を開始した。この運用に基づき、平成 29 年 8 月 28 日・29 日の 2 日間、当院ヘリポートでの離着陸訓練を実施した。
- ・ 12 月 9 日に大規模地震を想定した総合防災訓練を実施し、病院職員、ボランティア等を合わせて 200 名以上が参加した。
- ・ 横浜でもラグビーワールドカップや東京オリンピックが開催されることを受け、テロ対策に主眼を置いた訓練が増えおり、神奈川県国民保護研修会、神奈川県国民保護共同実動訓練、中消防署負傷者多数発生（テロ）対応訓練、中消防署地下鉄駅爆破（テロ）災害関係機関合同検討会等の訓練、研修会に参加した。

3 課題

災害時に関係機関が連携して活動するためには、日頃から顔の見える関係を築いておくことが重要と言われている。当院でも関係機関との訓練、研修会、会議等を通じ、日頃から地域の関係者との顔の見える関係を構築し、災害時には災害拠点病院としての機能を発揮して地域の災害医療の貢献できるよう、取り組んでいきたい。

2-10 市民の健康危機への対応

1 データ

横浜市新型インフルエンザ等対策医療関係者連絡協議会

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
開催日	第 13 回 9 月 8 日 第 14 回 3 月 22 日	第 15 回 3 月 21 日	第 16 回 3 月 6 日

2 成果

- ・横浜市新型インフルエンザ等対策医療関係者連絡協議会に出席。
- ・新型インフルエンザ等発生時における帰国者・接触者外来の開設に関し、他病院の訓練を情報共有した。
- ・横浜市の抗インフルエンザ薬の備蓄計画の見直しに伴い、院内での抗インフルエンザ薬使用状況を考慮し、薬剤ごとの備蓄割合（薬局備蓄含む）を再検討した。

3 課題

横浜市新型インフルエンザ等対策医療関係者連絡協議会等と連携して、資器材・抗インフルエンザ薬の整備・備蓄を進めるとともに、帰国者接触者外来開設の準備を進める。

3 指定管理者独自の取組み

3-1 入院支援センター

1 経緯

入院支援センターは、入院前に検査・手術説明・持参薬の確認等を過不足なく行い、患者の不安や疑問を解消することで、患者が安心して入院診療を受けることができることを目的として設立された。

平成 26 年 8 月 15 日より入院支援センターワーキンググループが始動し、手順書の作成、施設（レイアウト変更、改修工事）の整備を討議した。

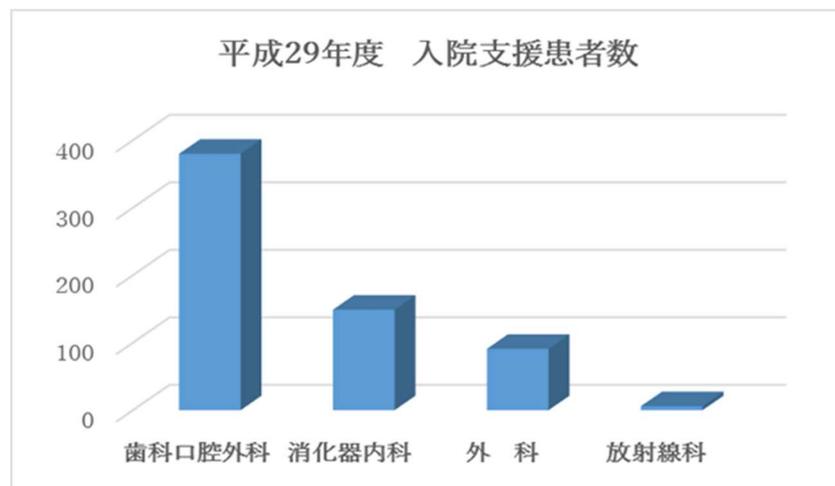
平成 26 年 12 月より診療計画がクリニカルパスとして運用されている外科・消化器内科の入院支援のシミュレーションが 31 件行われた。

平成 28 年 12 月よりは入院支援センター運営会議が発足し、入院支援センターの開設に向け準備・討議をし、平成 29 年 3 月より外科の腹腔鏡下胆嚢摘出術に対し入院支援を開始した。

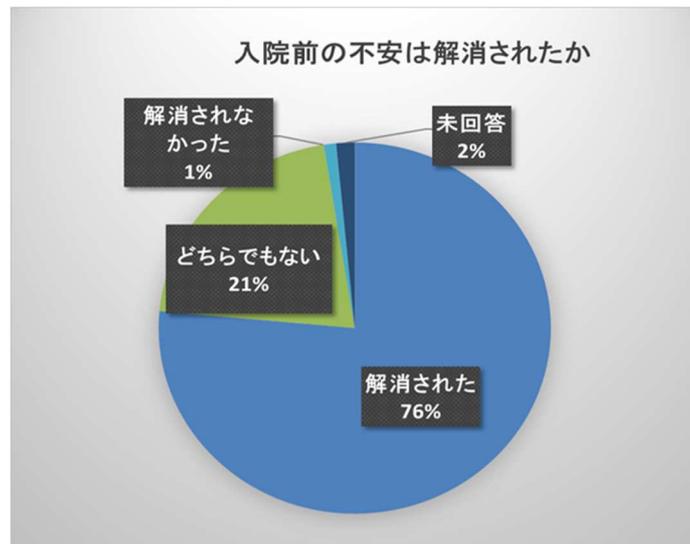
平成 29 年 4 月 3 日より入院支援センターが本格稼働し、4 月末からは歯科口腔外科の全入院患者、その後 9 月より消化器内科の大腸内視鏡粘膜切除術、12 月には放射線科の中心静脈ポート留置術に対し入院支援を開始した。

2 実績

平成 29 年度は入院支援患者の対象は 4 科、総数は 626 件であった。歯科口腔外科は全入院患者が対象のため、380 件と一番多かった。入院支援では、看護師・薬剤師・および事務が一人当たり平均約 30 分を掛けて説明を行い、入院に対する不安や困り事を解消できるよう支援している。



平成 28 年 6 月より患者アンケートを実施し、入院前の不安は解消されたかの問いには 76% の人が解消されたという高評価を得た。（平成 29 年 6 月～平成 30 年 3 月実施分）



3 課題

平成 30 年度の診療報酬改訂で、入退院支援の推進が評価され、入院支援加算が新設された。入院前から退院困難な要因をスクリーニングし、看護師、薬剤師、社会福祉士が患者の病状や生活状況、薬剤の確認を情報収集し、就労支援や今後の在宅療養支援を早期に開始することなどが求められている。今後は、入院支援センターとしての機能を拡大し、安心して退院後の療養場所での生活に移行できるよう、その人にあった医療の質を保障し、地域住民に対する生活の質の向上を図ることができる入退院支援センターの設立を目指したい。

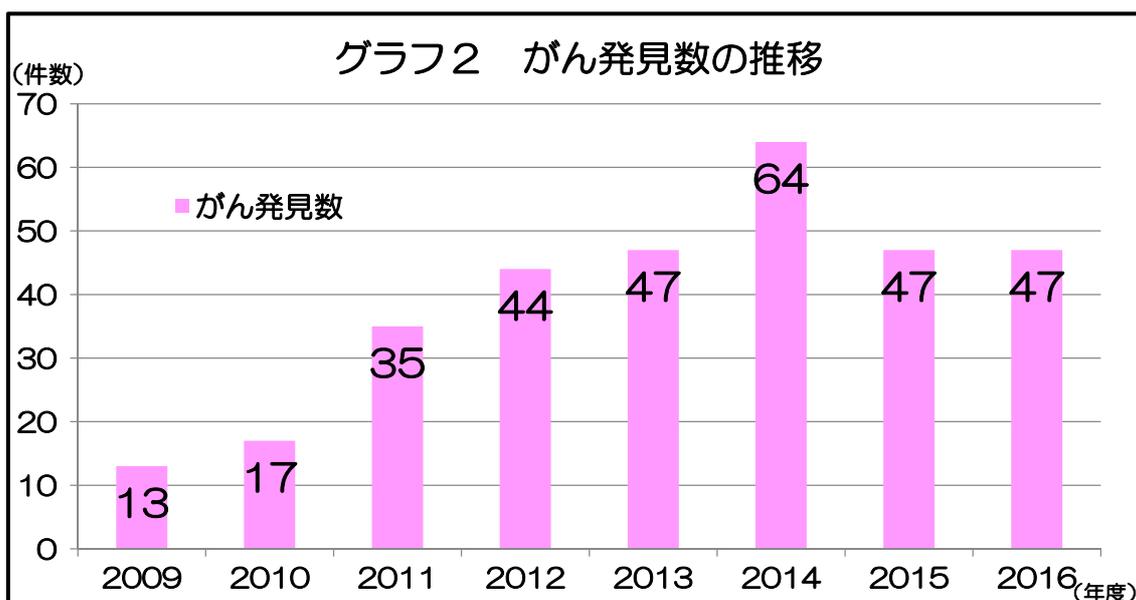
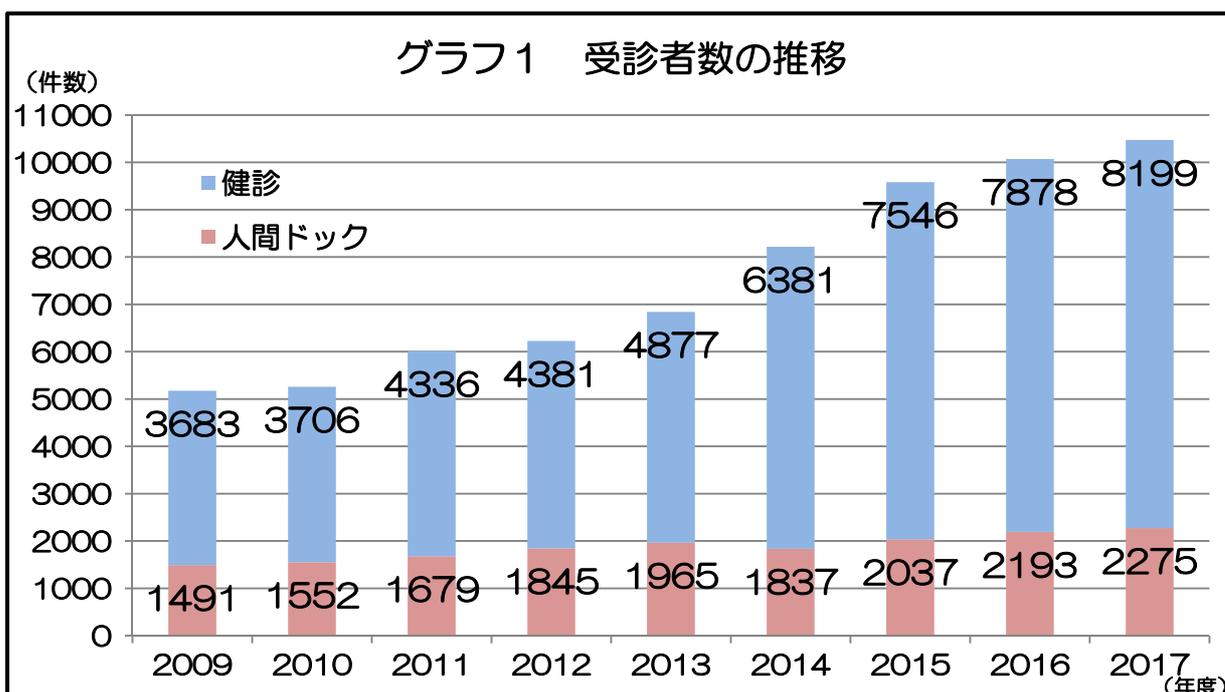
3-2 健診センター

1 データ・成果

近年、個人の健康志向が高まり、「健康寿命」や「未病」という概念も少しずつ国民に浸透し、健康管理に対する取り組みを行政や企業が行っている。こういう背景のなか、当センターは地域住民だけでなく、企業や健保組合、医療機関にも信頼される健診施設となることをめざし活動してきた。その結果、平成29年6月に長年の目標であった人間ドック健診施設機能評価の施設認定を受けることができた。特に高い評価を受けた項目は、活発な啓発活動と良好な地域との関係、各科専門医の充実による健診の質の確保、積極的な学術活動による有用な健診の確立への貢献、確実な結果説明であった。

当院が「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けているため、特にがん検診受診率の向上と早期発見・早期治療に注力してきた。具体的には、横浜市が行うすべてのがん検診（胃・大腸・肺・子宮・乳・前立腺）の受託、市がん検診2次読影委員（肺がん、内視鏡胃がん、乳がん）としての精度管理向上への貢献、苦痛の少ない経鼻的上部消化管内視鏡検査の導入、低侵襲で診断効率の高いPET/CT検査を組み込んだ人間ドックメニューの新設、市民セミナーなどを通じた予防の重要性に関する積極的な情報発信、横浜 Leaf 献血ルームにおけるがん検診受診勧奨などである。受診者数の増加と受診後追跡調査の強化の結果、がん発見数は2012年度以降40件以上を維持できている（グラフ1・2）。

良質な受診者サービスを提供するためにさまざまな取り組みを行ってきた。豊富な人間ドック健診コースとオプション検査との組み合わせによる「オーダーメイドヘルスチェック」の提供、科学的根拠に基づく各学会のガイドラインに個人の背景因子も考慮した独自の判定基準の導入、個別性を重視した保健指導、待ち時間に対する満足度向上のためのFree Wi-Fi設置、受診者の利便性に配慮したインターネット予約の開始、栄養指導を兼ねたランチメニューの提供などである。



2 課題

超高齢社会に突入した今、限りある医療資源を有効に運用するためにも今後ますます予防医学が重要な役割を担うことになる。健診施設の使命は、地域住民の心と体を健やかに保ち仕事に専念でき、家族や友人と有意義な時間を長く共有できるような、満足度の高い人生作りを支援することである。

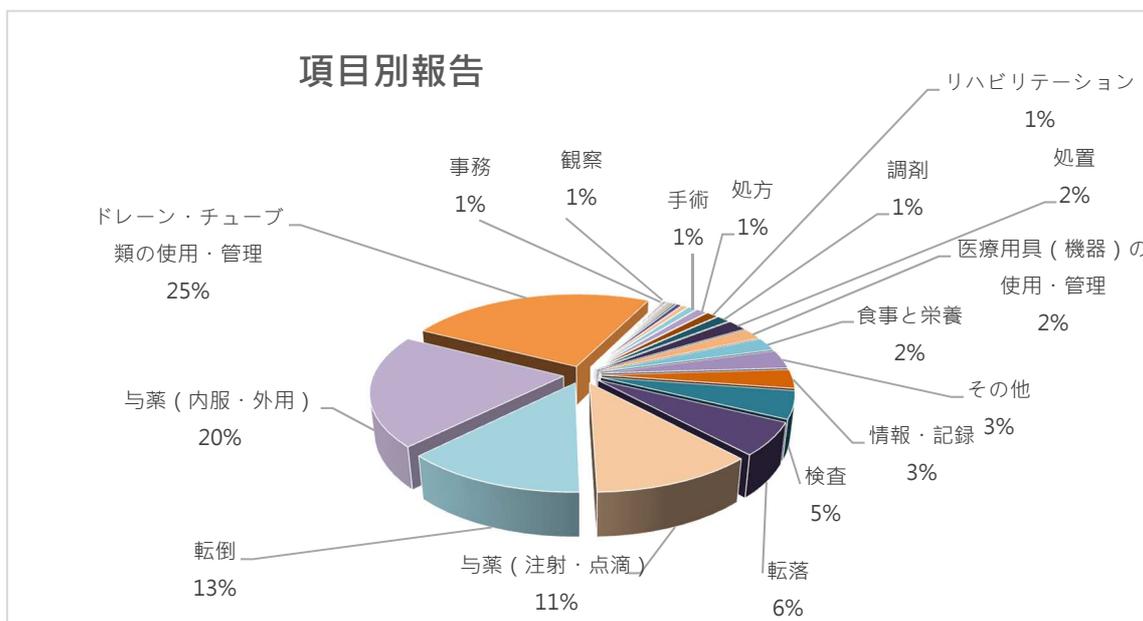
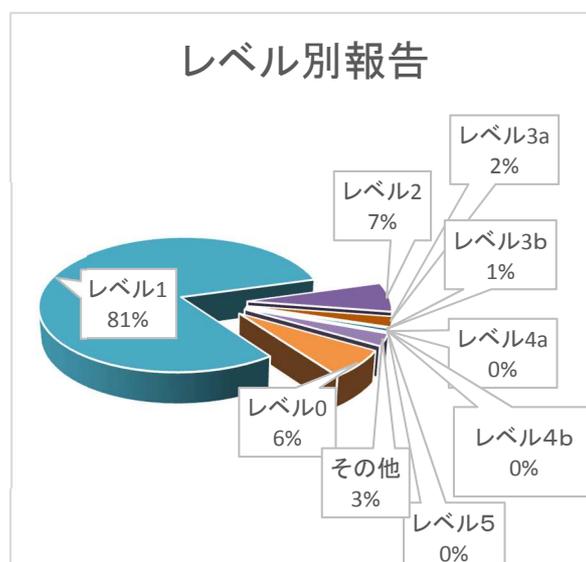
引き続き、検査の安全性や精度の向上を図ることや受診者の満足度を向上させることに加え、個別化（オーダーメイド）予防の観点から個人の背景に応じた保健指導・受診勧奨を行い、疾患の予防法の確立に寄与できるよう努める。

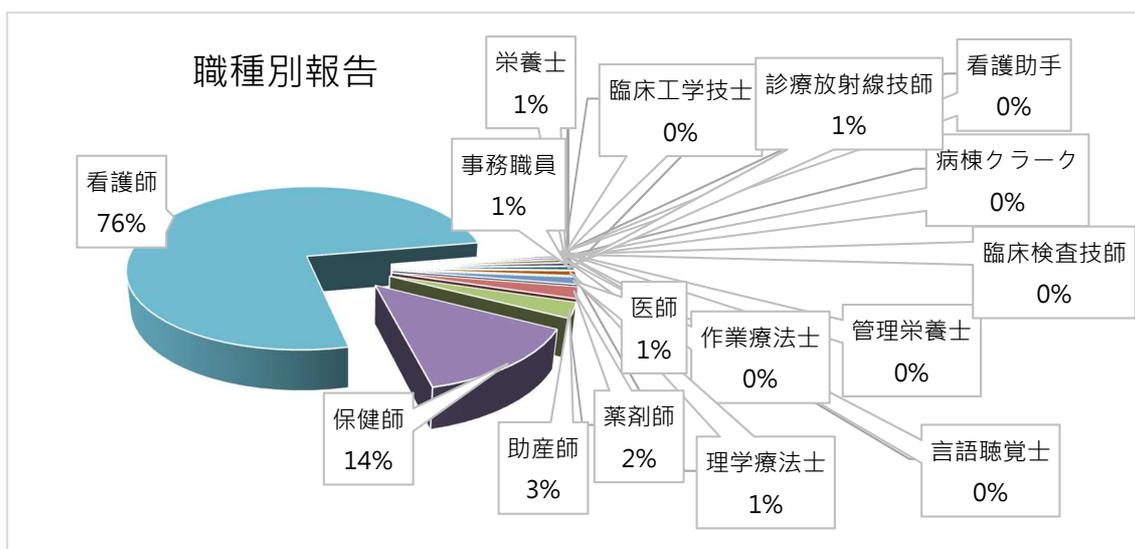
4 地域医療の質の向上に 向けた取組み

4-1 医療における安全管理(安全)

1 データ

- ・平成29年度インシデントレポート報告件数は、3960件。
- ・平成29年度全職員対象安全研修会は、第1回は6月、第2回は職種別に12月と1月に開催した。参加率は、それぞれ84%と78%。
- ・医療職対象医薬品医療機器安全講演会を2月に開催した。出席者は、143人。
- ・院内救急サポートチーム(MEST)と共催し、2月にコードブルーメディカルラリーを開催した。
- ・RM対象の安全研修会を全8回開催した。また、RM医師対象の安全研修会を開催した。
- ・医療安全管理委員会とRM委員会は、毎月開催した。
- ・RM委員会の中で、医療機器安全管理者によるミニレクチャーを適宜開催した。





・内視鏡検査・治療について

(1) 29年度の重症症例についての報告件数は、1件であった。

重症症例については、内視鏡運営委員会において定期的に報告、検討されている。

(2) 平成29年度研修実績（開催・参加状況）

①平成30年3月2日

内視鏡室患者急変時対応トレーニング

参加人数 医師8名 看護師5名

2 成果

- (1) インシデント報告件数が伸びている。
- (2) 職員への教育計画を予定通り実施した。
- (3) 安全管理マニュアルを平成29年9月に改訂した。
- (4) 与薬・転倒転落に関する定期調査を実施した。
- (5) 指さし呼称を推進し、各部署取り組むことができた。
- (6) 安全ラウンドを計画通り実施できた。
- (7) 平成29年7月13日（木）市立3病院医療安全報告会において、安全管理の委員会の活動状況、安全管理研修等の開催状況、インシデント報告の状況等を報告し、共有した。
- (8) チューブ抜去検討チームは、せん妄アセスメントシートを試用できた。次年度には本格的に導入していきたい。
- (9) 輸液、シリンジポンプの研修会回数が増加及び、医師・看護師以外の栄養課、薬剤部、看護助手への研修会が増加した。
- (10) 造影剤副作用報告のフロー作成し、副作用発生情報を定期的に委員会で共有することができた。

3 課題

- ・報告件数は年々上昇しているが、報告に関する認識は差があるため、継続的に啓発が必要。

eラーニングの導入を予定しているため、安全に関する知識と感性の向上を目指す。

- ・チューブ抜去、薬剤エラー、転倒・転落について、対応策に実施。
- ・患者誤認対策を強化。

4-2 医療における安全管理（感染）

1 データ

- (1) 平成 29 年度研修会実績
 - ・第 1 回全職員対象感染講演会は、5 月と 9 月に開催した。参加率はそれぞれ 87%と 82%。
 - ・みなとセミナー感染講演会「薬剤耐性(AMR)対策 アクションプランが目指す方向性」を 1 月に開催した。院外出席者も含め、出席者は 33 人。

2 成果

- (1) 感染対策マニュアルを平成 30 年 3 月に改訂した。
- (2) ICT による定期的な院内ラウンドを実施し、問題点を現場へフィードバックした。
- (3) サーベイランスによるアウトブレイクの特定
 - ・BSI サーベイランス、SSI サーベイランス継続。JANIS サーベイランス：検査部門・全入院患者部門継続。MRSA 検出患者サーベイランス継続。特定病棟での耐性菌検出時に対してはラウンド等行い接触感染防止策の再確認を行った。サーベイランスではアウトブレイクは特定されなかった。
- (4) 抗生物質の適正使用：特定抗生物質使用届け後のフォロー
年度の特定抗菌薬の届出率は 51%であった。また、1 週間以上の長期使用患者に対しては主治医と部長に適正使用を促した。起炎菌や感染症名から、不適切な使用と考えられる場合には ICD から主治医に適正使用を促した。
- (5) 感染事例への具体的な対応・指示、関連機関との連携を図った。
- (6) 感染防止対策加算 1 に則り他施設とのカンファレンスを 4 回開催した。感染対策地域連携加算に則り他施設と相互ラウンドを実施した。他病院の感染防止対策活動の一端を知る良い機会となった。
- (7) AST（抗菌薬適正使用支援チーム）を設立し活動を開始した。

3 課題

- (1) 標準予防策・感染経路別予防策の徹底
- (2) サーベイランスによるアウトブレイクの特定：BSI、SSI、JANIS、MRSA
- (3) 抗菌薬の適正使用：特定抗菌薬届出の推進
- (4) 針刺し防止：安全機能付き器具の適正使用推進
- (5) リンクナースの活動支援
- (6) 地域連携への取り組み
- (7) 流行性ウイルス疾患抗体価検査の推奨

4-3 医療倫理に基づく医療の提供

1 データ

平成27年度・平成28年度 医療倫理委員会実績

	平成27年度	平成28年度
承認件数	65件	69件
開催回数 開催日等 (参加人数)	第1回 5月27日 (13人) 第2回 7月22日 (16人) 第3回 9月14日 (8人) 第4回 11月13日 (11人) 第5回 1月15日 (6人) 第6回 3月11日 (11人)	【臨時】 4月14日 (10人) 第1回 5月20日 (9人) 第2回 7月15日 (9人) 第3回 9月9日 (9人) 第4回 11月30日 (8人) 第5回 1月15日 (文書) 第6回 3月10日 (8人)

平成29年度医療倫理委員会実績 承認件数71件

開催日 (参加人数)	議題	結果
5月12日 (9人)	(1) 喘息患者における吸入ステロイド継続の必要性について一定期使用と頓用使用を比較した気道過敏性改善効果に関する検討	承認
	(2) 未治療多発性骨髄腫に対するVRD (Bortezomib, Lenalimide, Dexamethasone) 療法+自家末梢血幹細胞移植の有効性の検討	承認
	(3) 慢性心不全患者におけるBIA法を用いた利尿薬の治療効果判定	承認
	(4) (症例報告) 扁平上皮肺癌耳下腺部及び胸椎転移に対してニボルマブと局所放射線療法を併用し、abscopal effectの関与が示唆された1例	承認
	(5) SGLT2阻害薬による脂肪肝改善作用についての検討	承認
	(6) 調剤薬局での吸入指導でデバイスが変更または補助器具が追加された症例の検討	承認
	(7) 当院におけるバセドウ病に対するアイソトープ治療成績の検討	承認
	(8) 糖尿病を合併した尿路感染症患者の非糖尿病患者との比較検討	承認
	(9) 糖尿病ケトアシドーシス再発患者における臨床的特徴の検討	承認
	(10) インスリノーマ症例に対するジアゾキシドの有用性・安全性に関する後方視的研究	承認
	(11) 加齢性平衡障害に伴うフレイルの臨床的検討	承認

	(12) 高血糖緊急症における輸液療法の腎機能への影響に関する多施設後ろ向き観察研究	承認
	(13) 非弁膜症性心房細動を有する後期高齢患者を対象とした前向き観察研究 All Nippon AF In Elderly Registry –ANAFIE Registry–	承認
	(14) 健常成人におけるモストグラフを用いた呼吸抵抗の予測標準値に関する研究 →その他の変更	承認
開催日 (参加人数)	議題	結果
7月14日 (10人)	(15) 入院めまい患者における PSQI を用いた睡眠の検討と薬剤併用効果	承認
	(16) 緩和ケアチームにおける悪心・嘔吐の評価と考察	承認
	(17) StageIII大腸癌治癒切除例に対する術後 SOX 療法の投与量および治療スケジュール最適化のための探索的ランダム化比較第II相試験 →責任医師の変更	承認
	(18) カテーテルアブレーション施行時のペンタゾシンによる嘔気嘔吐の発現に関する検討 →研究期間の延長	承認
	(19) 橈骨動脈と上腕動脈における収縮期血圧の差を利用した中心静脈血酸素飽和度の推定—多施設共同前向き観察研究—	承認
	(20) 医療・介護関連肺炎 (NHCAP) における誤嚥性肺炎の抗菌薬治療抵抗性のリスク因子探索	承認
	(21) 院外心停止患者におけるDダイマー測定の臨床的有用性の検討	承認
	(22) 冠攣縮狭心症が疑われ、アセチルコリン負荷試験を行った患者の観察研究	承認
	(23) 心房細動アブレーションにおけるクライオアブレーションの治療成績の検討及び肺動脈隔離維持の因子の検討	承認
	(24) Automatic and voluntary respiration failure induced by unilateral lateral-medially infarction	承認
	(25) Clinical Impact of Ventriculitis Detected by Magnetic Resonance Imaging in Bacterial Meningitis in Adults	承認
	(26) Utility of arterial spin labeling-magnetic resonance imaging with patients suspected of epilepsy in emergency settings	承認
	(27) 非典型溶血性尿毒症症候群 (aHUS) の診断・全国調査研究	承認

	(28) 脳梗塞再発高リスク患者を対象とした抗血小板薬併用療法の有効性及び安全性の検討 CSPTS. com →分担医師の変更	承認
開催日	議題	結果
9月15日 (8人)	(29) 造血細胞移植医療の全国調査	承認
	(30) JALSG 参加施設において新規に発症した全 AML、全 MDS、全 CMML 症例に対して施行された治療方法と患者側因子が 5 年生存率に及ぼす影響を検討する観察研究 (前向き臨床観察研究)	承認
	(31) ロンサーフ (TFTD) 使用症例の後ろ向き観察 (コホート) 研究	承認
	(32) 1 型糖尿病小児における血糖変動可視化が血糖コントロールへ及ぼす影響に関する検討	承認
	(33) 脳卒中患者における手指機能テーピングの効果	承認
	(34) 病院外心停止に対する包括的治療体制の構築に関する研究 →研究期間の変更	承認
	(35) Cryo AF グローバルレジストリ研究 →実施計画書、同意説明文書、分担医師の変更	承認
	(36) 終末期心不全患者の在宅医療への移行の可能性の検討	承認
	(37) 小児期・思春期に糖尿病を発症した人の青年期・成人前期に経験する難しさとその対処	承認
	(38) 末梢神経症状を持つ消化器がんサバイバーにおける身体活動の維持	承認
	(39) 人間ドック受診者を対象とした遺伝子検査に関するアンケート調査	承認
	(40) 先天性血液凝固因子および凝固阻止因子欠損症の分子遺伝子学的検討	承認
開催日	議題	結果
11月14日 ～22日 (文書審議)	(41) 先天性脂肪萎縮症の病因・病態の解明と治療法の探索	承認
	(42) 関節リウマチ滑膜細胞及び血清の細胞周期調節因子、細胞活性化因子、細胞遊走因子、細胞成長因子の解析	承認
	(43) 小児期・思春期に糖尿病を発症した人の青年期・成人前期に経験する難しさとその対処 →実施計画書の変更	承認
	(44) 集中治療室 (ICU) における抗菌薬使用と de-escalation の実態調査 →実施計画書の変更	承認
	(45) CRT 奏功の予測因子としての左心室内伝導時間に関する多施設、前向きパイロット研究 (BIO SELECT Pilot)	承認

	(46) 乳癌周術期化学療法におけるリンパ球減少への影響	承認
	(47) 集中治療従事者における倫理的苦悩に関する研究	承認
	(48) 浸潤性乳癌周囲の乳管内進展を術前に病理診断する方法の 開発	承認
	(49) カテーテルアブレーション症例全例登録プロジェクト (J -AB レジストリ)	承認
	(50) 周術期口腔機能管理が入院患者の誤嚥性肺炎の発症および 予後に与える効果についての多施設共同研究 →実施計画書の変更	承認
開催日	議題	結果
【臨時】 12月7日 (8人)	(51) 房室結節回帰頻拍に対する冷凍アブレーション治療法の臨 床的研究 (日本国内多施設共同研究)	承認
	(52) 呼吸器系基礎疾患をもつインフルエンザウイルス感染症患 者におけるベラミビル (Rapiacta®) 投与時の呼吸器症状の改善 に関する検討ー最大用量反復に対する通常用量単回およびオセ ルタミビル対照試験ー	承認
	(53) 当科における気管支喘息患児の入院・救急受診の推移	承認
開催日	議題	結果
1月12日 (8人)	(54) 非弁膜症性心房細動患者を対象としたカテーテルアブレー ション周術期における経口 FXa 阻害剤エドキサバンの有効性及 び安全性評価のための多施設共同臨床研究	承認
	(55) 救急外来における高感度心筋トロポニン I 測定の有用性の 検討	承認
	(56) スtent内再狭窄に対するパクリタキセル溶出型バルーン の長期有効性および安全性についての検討	承認
	(57) 人間ドック健診受診者における胆嚢腺筋症と生活習慣病関 連因子および脂肪肝・胆嚢結石との関連 →研究分担者の一部変更	承認
	(58) 人間ドック受診者を対象とした遺伝子検査に関するアンケ ート調査 →研究分担者の一部変更	承認
	(59) 半閉鎖式システムにおける経腸栄養剤持続投与時の細菌汚 染の検証 →研究期間の一部変更	承認
開催日	議題	結果
3月5日～13日 (文書審議)	(60) 滅菌密閉型容器における経腸栄養剤と細菌汚染	承認
	(61) 当院に緊急入院となった糖尿病薬による低血糖症例の検討	承認

	(62) ペンブロリズマブ投与後に縦隔肺門リンパ節にサルコイド反応を認めた肺腺癌の1例	承認
	(63) 予防医療スタッフによる献血ルームでの啓発活動の効果に関する研究	承認
	(64) 呼吸器系基礎疾患をもつインフルエンザウイルス感染症患者におけるベラミビル (Rapiacta®) 投与時の呼吸器症状の改善に関する検討ー最大用量反復に対する通常用量単回およびオセルタミビル対照試験ー →実施計画書、患者日誌別紙の変更、配布用リーフレットの追加	承認
	(65) 皮膚リンパ腫臨床統計調査研究	承認
	(66) 細かな骨を含む撮影(手周囲)におけるVG処理の使用検討について	承認
	(67) 当院、乳腺外来における乳がん患者の妊孕性に関する情報提供と現状についての報告	承認
	(68) RET 融合遺伝子等の低頻度の遺伝子変化陽性肺癌の臨床病理学的、分子生物学的特徴を明らかにするための前向き観察研究 (LC-SCRUM-Japan)	承認
	(69) 遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する研究 (J-HOPE4 研究)	承認
	(70) 呼吸器系基礎疾患をもつインフルエンザウイルス感染症患者におけるベラミビル (Rapiacta®) 投与時の呼吸器症状の改善に関する検討ー最大用量反復に対する通常用量単回およびオセルタミビル対照試験ー →研究分担者、配布用リーフレット・ポスターの追加	承認
開催日	議題	結果
【臨時】 3月6日～8日 (文書審議)	(71) 急性骨髄性白血病に対するアザシチジンの有効性と予後因子の調査研究	承認

2 成果

- ・計画どおり2か月に1回開催した。
- ・自主臨床研究審査委員会との関係を整理し、「本格的な前向き治療介入」または「軽微でない侵襲」を同委員会から答申事項として受け審議することとした。また同委員会からの申請が全て報告事項であった場合、メールによる文書審議の形で開催することとした。
- ・「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の改訂に対応するため、様式の追加及び既存様式の再検討を行った。

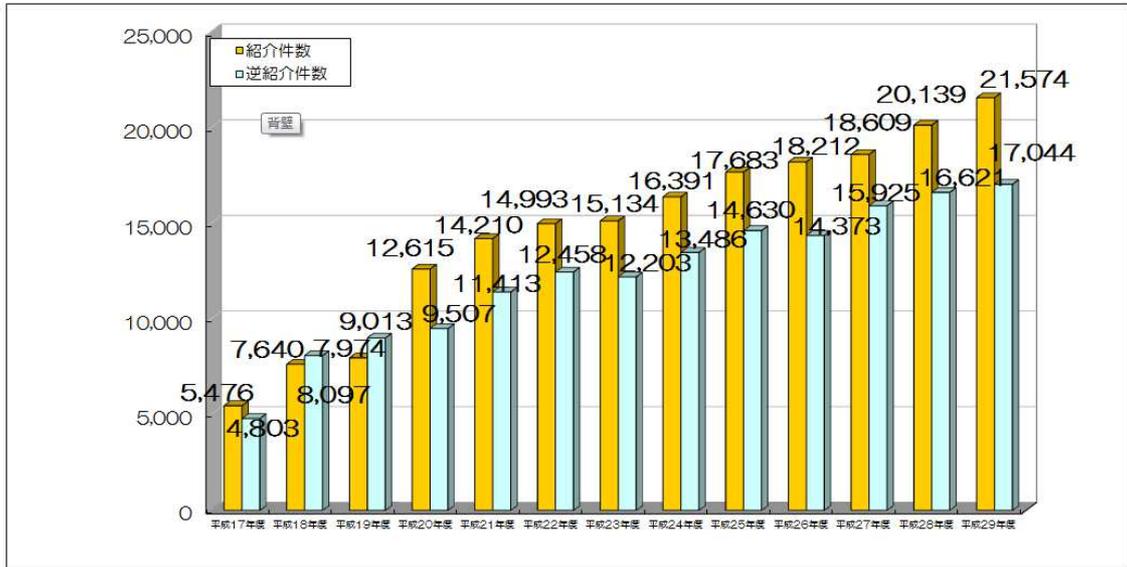
3 課題

- ・「臨床研究法」制定に伴う認定臨床研究審査委員会との調整、及び特定臨床研究への当委員会としての関わり方について、検討が必要である。

4-4 地域医療機関との連携・支援（医療連携課）

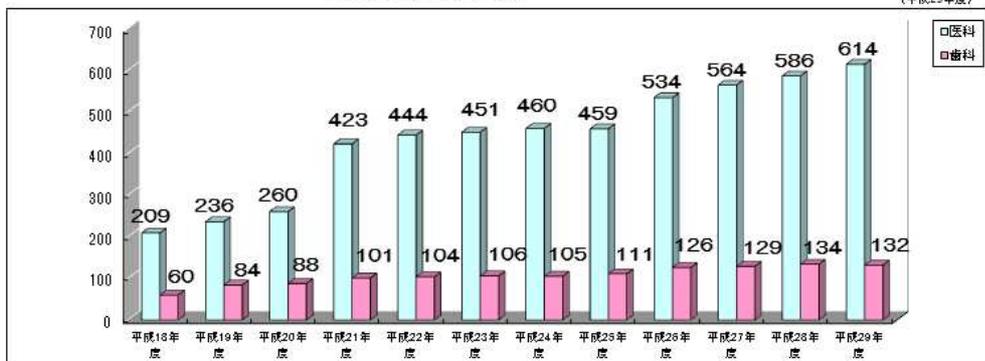
1 データ

紹介件数・逆紹介件数推移
(年度推移)

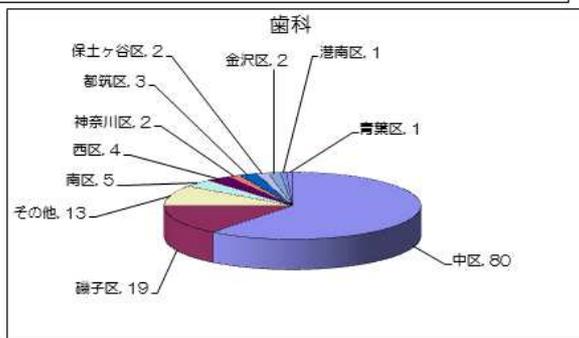
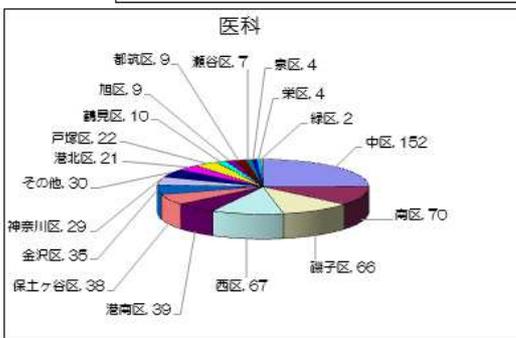


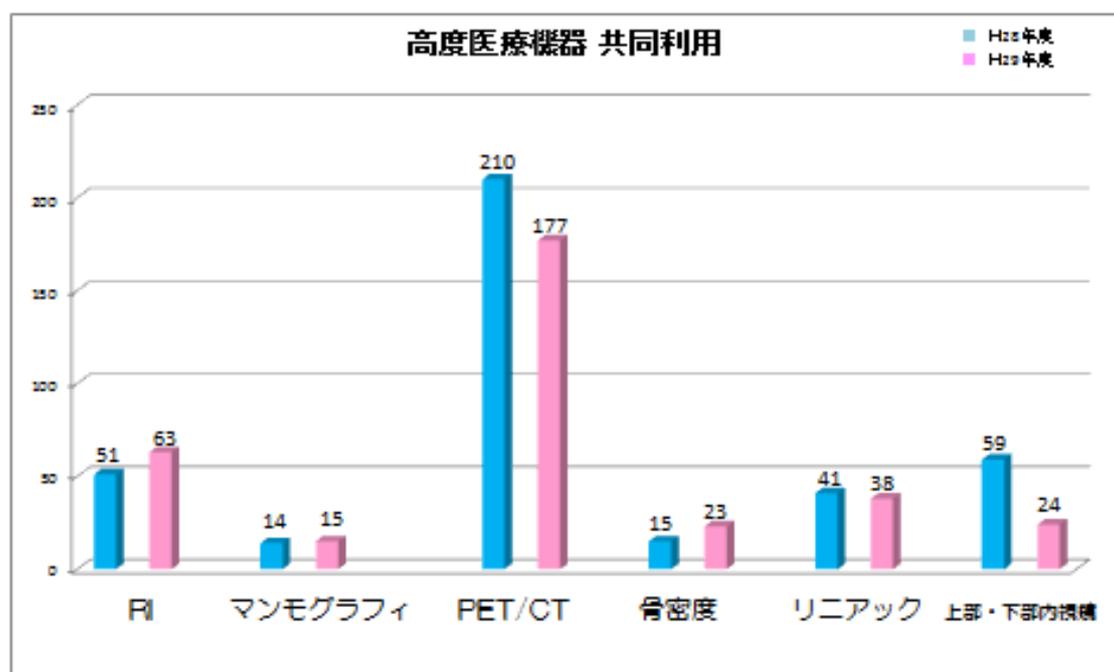
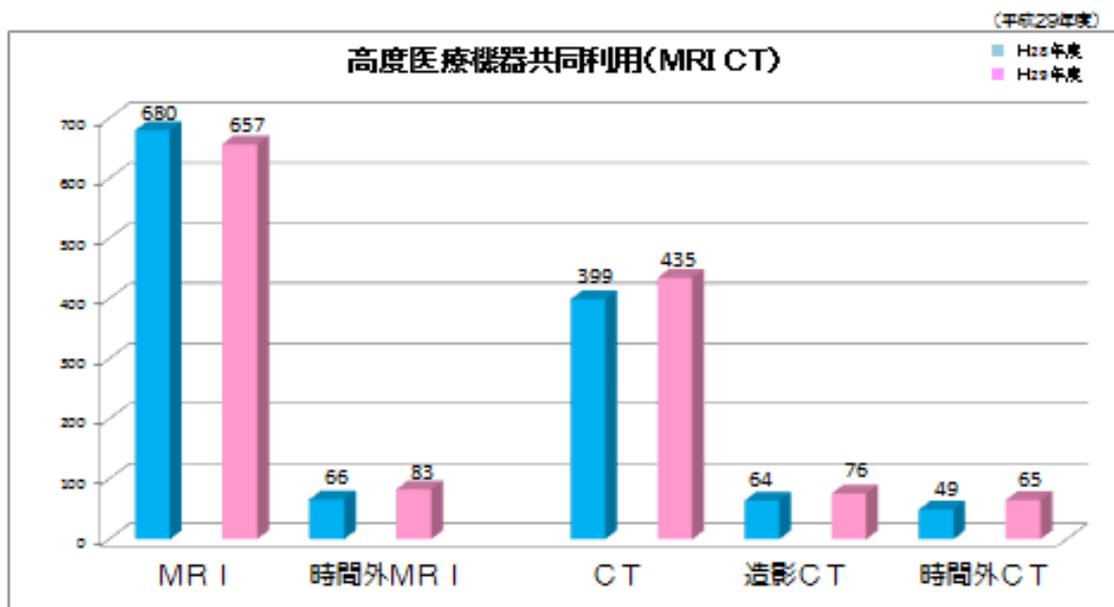
(平成29年度)

登録医登録状況

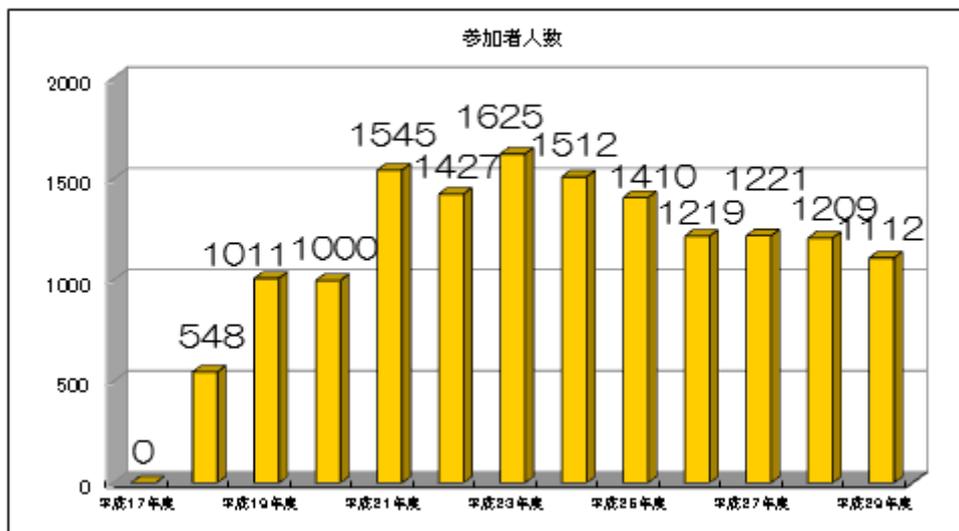
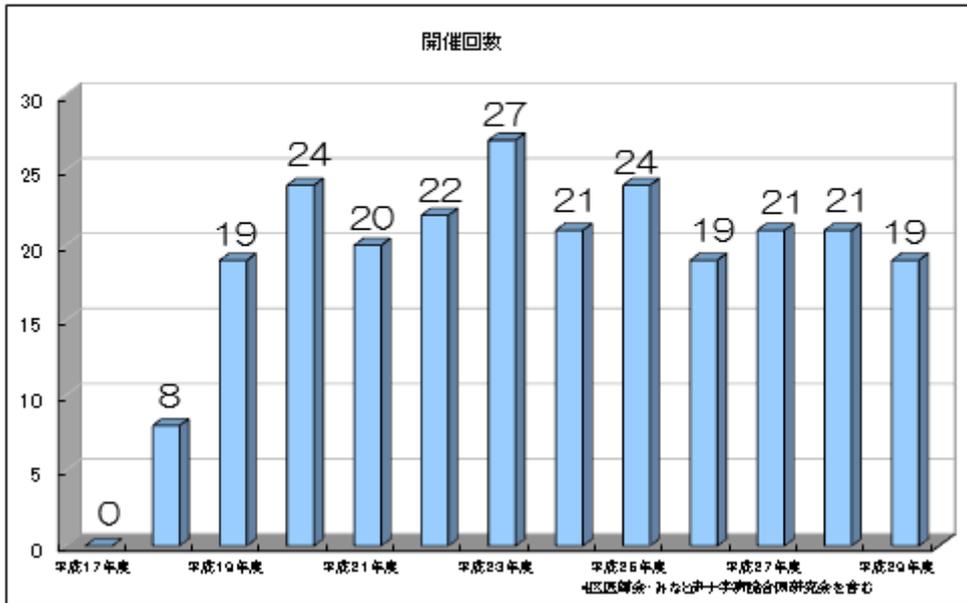


(平成29年度)





地域の医療従事者に対する研修実施状況 (年度推移)



2 成果

医療連携課は、医療連携センターの入口業務を担う部署であり、地域医療機関の窓口として“顔の見える連携”を心がけている。

地域の医療機関との医療機能の分担と連携を強化し、紹介・逆紹介の向上に努めた。

一方、地域医療支援病院として、地域の医療従事者に対する研修を、19回開催し、1,112名の参加があり、地域医療の質向上を図った。

3 課題

今後も、地域との医療機能の分担と連携を強化し、病院の運営方針である“逆紹介”を積極的に推進する。

4-5 地域医療機関との連携・支援（療養・福祉相談室）

1 データ

<相談室業務>

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
相談件数	7162件	6615件	6536件
がん相談件数	2370件	2155件	2372件

<算定件数>

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
退院支援加算	2242件	3681件	3696件
介護支援連携指導料	272件	392件	440件
退院時共同指導料2	99件	134件	148件
3者以上退院時共同指導加算	10件	6件	7件
大腿骨頸部骨折パス	32件	35件	48件
脳卒中パス	69件	74件	58件

<地域連携会議>

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
横浜脳地域連携懇話会セミナー	第1回 2月20日	第1回 2月16日	第1回 2月21日
横浜脳卒中リハ連携研究会	第1回 7月1日 第2回 12月9日 第3回 2月7日	第1回 7月6日 第2回 11月30日	第1回 7月5日 第2回 12月6日
神奈川脳卒中広域シームレス医療研究会セミナー	第1回 7月4日 第2回 12月19日	第1回 1月14日	第1回 9月9日
大腿骨頸部骨折地域連携パス合同委員会	第1回 6月16日 第2回 10月13日 第3回 2月23日	第1回 5月13日 第2回 10月11日 第3回 2月21日	第1回 7月31日 第2回 2月26日

<療養・福祉相談室 主催/共催研修>

4月18日	床ずれ、つくるも治すもあなたの腕しだい！	株式会社 北全
7月4日	骨粗しょう症と脊椎について	かいごのWa！なか ケアマネ部会
9月4日	救急外来で気になる外傷	
9月12日	がん患者さんの口腔ケア ～化学療法から看取りまで～	西区地域ケアプラ ザ主任ケアマネ
9月21日	がん患者さんの口腔ケア ～化学療法から看取りまで～	磯子区地域ケアプ ラザ主任ケアマネ
10月6日	肺がんについて	かいごのWa！なか ケアマネ部会
10月12日	がん患者さんの口腔ケア ～化学療法から看取りまで～	かいごのWa！なか ヘルプ部会
10月18日	みなとセミナー「横浜も人ごとではない！」 ～私達の地域の災害対策を一緒に考えましょう～	
11月10日	重症心身障害児者び医療概要	
11月16日	みなと赤十字スポーツ整形外科セミナー～未来のアスリ ートのために～	
12月15日	骨粗しょう症と脊椎について	今井地域 ケアプラザ
1月12日	白内障と緑内障について	かいごのWa！なか ケアマネ部会
2月1日	がん患者さんの口腔ケア ～化学療法から看取りまで～	戸塚区在宅療養 連絡会
2月9日	退院支援について	けあまねっと 保土ヶ谷
3月8日	ALSの在宅におけるラジカット治療についての勉強会	横浜市中区医師会
3月15日	多系統萎縮症～病気の理解と治療について～	神奈川区 高齢・障害支援課
3月16日	医科歯科連携講演会	横浜市歯科医師会 中区歯科医師会

2 成果

(1) 療養・福祉相談の実績報告（資料①）

(2) 地域関係機関との取り組み

- 1) 行政機関や在宅介護関係機関の会合への参加、「かいごのWA！中」の会合への参加、横浜市退院支援看護師の交流会への参加など、在宅療養支援に関する情報の共有を図った。
- 2) 横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステム実務者会議や障害者自立支援協議会への参加、中区3障害一体サービス提供施設運営委員会など、障害児者に関する活動を実施した。横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステムでは行政を通して16件の相談があり、14件受け入れを行った。
- 3) 全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会や医療協ソーシャルワーカー会などの委員会に参加した。
- 4) 精神科医療に関する活動として、合併症受入病院連絡会や精神保健業務連絡会、医事担当者会議等の参加し、必要な情報収集、受入病院としての提言をした。また、精神科救急医療/身体合併症システムの円滑な運用に向け、外部研修で四縣市、他医療機関との連携を図った。
- 5) 神奈川脳卒中広域シームレス医療研究会、横浜脳卒中地域連携懇談会、横浜脳卒中・リハ連携研究会（Y-CIRCLE）に参加し、大腿骨頸部骨折パス合同委員会は当院で開催した。
- 6) 横浜市歯科医師会と在宅医科歯科連携の強化に向けた取り組みを推進した。
- 7) 横浜市リハビリテーション事業団とALS患者支援に関する連携を強化し、MSWが病院と地域を結ぶコーディネートの役割を担った。
- 8) みなとセミナー「よりよい在宅療養支援をめざして part 11」を開催した。
- 9) 横浜市児童虐待防止医療ネットワークに毎年3回参加し、市内小児救急病棟と児童虐待防止に向けた取り組みについて情報交換を行った。

(3) 専門職育成への取り組み

院外からは、14名の看護学生、1名の社会福祉学生の実習、1名の精神保健福祉学生の実習、神奈川県看護協会第2支部の研修生を4名、院内は看護部からクリニカルラダー「退院支援コース」の研修者を20名受け入れた。

(4) 専門職としての研鑽

神奈川県看護協会、医療協、神奈川県MSW協会、神奈川県PSW協会やその他自治体主催による各種研修を積極的に受講し、有資格者としての自己研鑽を図った。また、資格の専門性を生かし幅広い活動を通して業務に反映させた。

- 1) がん相談支援センター相談員研修（1）（2）1名が受講をし、3名が認定がん専門相談員の資格を有している。
- 2) 災害関連としてDMAT・DPATの要員に必要な研修に参加した。

3 課題

- (1) 入退院支援センターの体制を整備し、より早期から必要な情報提供や療養支援が実施できる体制を構築する。
- (2) 入退院支援マニュアルに沿った療養支援を病院全体で推進し、老いや病気を抱えた患者や家族に対し、包括的な支援を実施していく。また、病院と在宅チームとで退院後の患者の状態を共有する、退院支援を病院と地域で評価する仕組みを地域の関係者と共に作る退院支援体制の構築を目指していく。
- (3) 大腿骨頸部骨折地域連携パス／脳卒中地域連携パスについて運用の見直しを検討し、引き続き院内外の連携を深め、円滑な運用を進める。
- (4) 政策医療の一つでもある精神科救急医療／身体合併症システムの円滑な運用に向け、院内外との連携を深める。
- (5) みなとセミナー「よりよい在宅療養支援をめざして part 1 2」を実施する。
- (6) がん拠点病院に必要とされるがん相談支援センターの体制を強化していく。
- (7) 横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステムの院内外との連携を進める。
- (8) 各区医師会 在宅医療連携室との連携を推進していく。

医療社会事業課 平成29年度報告書(資料①)

平成29年度分
横浜市立みなと赤十字病院

(1)取扱人数

区分	人数
年度実人数	6536 人
年度延人数	37568 人

区分	実人数	
新規介入ケース	入院	3669 人
	外来、その他	2702 人
終了ケース	6360 人	

精神科入院相談件数	364 件	
がん相談	実件数	2372 件
	延べ件数	7480 件
	(対面)	3196 件
	(電話)	3460 件
	(その他)	823 件

*算定

退院支援加算1(600点)	3696 件
介護支援連携指導料(400点)	440 件
退院時共同指導料2(400点)	148 件
保険医共同指導加算3者以上(2000点)	7 件
精神科退院指導料(320点)	89 件

*地域連携パス実施状況

大腿骨頸部骨折パス	48 件
脳卒中パス	58 件
誤嚥性肺炎パス	2 件

(2)新規ケースの紹介経路

区分	実件数
医療職Ⅰ	917 件
医療職Ⅱ	2 件
医療職Ⅲ	2427 件
一般職Ⅰ	58 件
一般職Ⅱ	1 件
本人	341 件
家族・親戚縁者	490 件
院外関係者	2019 件
近隣者・知人	5 件
ソーシャルワーカー	111 件
合計	6371 件

(3)取扱内容

区分	実件数
家族関係の問題	72 件
介護・療養生活上の問題	2858 件
経済に関する問題	364 件
日常生活上の問題	210 件
就労・職場の問題	15 件
教育の問題	0 件
医療の確保に関する問題	2448 件
人権に関わる問題	92 件
心理・情緒的問題	195 件
制度活用に関する問題	483 件
その他	1281 件
合計	8018 件

(4)援助方法

方法	延件数	
面接	本人	10718 件
	家族等	5959 件
電話	本人	270 件
	家族等	6794 件
訪問	本人	28 件
	家族等	1 件
同行・同伴・代行	3 件	
文書(電子メール、FAX含む)	3345 件	
情報収集	20159 件	
院内協議・院内カンファレンス	30755 件	
院外協議・院外カンファレンス	22694 件	
合同カンファレンス	806 件	
その他	10 件	
合計	101542 件	

(5)相談援助調整内容

内容	延件数
家族関係に関する事	548 件
在宅介護に関する事	10684 件
療養生活に関する事	16731 件
経済的問題に関する事	1506 件
就労・職場環境に関する事	41 件
就学・教育環境に関する事	15 件
虐待・暴力・人権に関する事	339 件
受診・受療に関する事	2212 件
転院に関する事(医療機関)	11372 件
他施設利用に関する事	3235 件
心理・情緒的問題に関する事	684 件
他福祉関係法に関する事	1077 件
高額療養費に関する事	235 件
その他	2729 件
合計	51408 件

(6)転帰先

区分	実件数
回復期リハビリテーション病院	263 件
一般病院	277 件
包括ケア	27 件
療養型病院	73 件
精神病院	177 件
介護老人保健施設	78 件
特別養護老人ホーム	66 件
有料老人ホーム	166 件
グループホーム	10 件
緩和	41 件
在宅	1663 件
死亡	123 件

(7)その他

苦情	7 件
----	-----

4-6 市民委員会

1 データ

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
開催日 (出席人数)	平成 28 年 2 月 23 日 (9 名)	平成 29 年 2 月 21 日 (9 名)	平成 30 年 3 月 1 日 (7 名)

	委員氏名	役 職
1	行天 良雄	医事評論家
2	荻野 安奈	作家 慶應義塾大学文学部教授
3	三角 隆彦	社会福祉法人恩賜財団済生会横浜市東部病院院長
4	秋山 修一	横浜市中区医師会 会長 (H29 新任)
5	玉村 和己	日本発条株式会社 代表取締役会長
6	川本 守彦	川本工業株式会社 代表取締役社長
7	河村 朋子	横浜市磯子区医師会訪問看護ステーション管理者
8	平山 正晴	横浜市中区連合町内会長連絡協議会 会長
9	田島 真也	横浜みなと赤十字病院奉仕団 団員 (H29 新任)

2 成果

平成 30 年 3 月 1 日に開催した平成 29 年度市民委員会では下記項目について当院の取り組みを報告した。

- ・横浜市立みなと赤十字病院の現況
- ・地域の口腔ケアの質向上の成果 ～急性期病院が地域から学ぶ成長のポイント～
(歯科口腔外科、医療社会事業課)
- ・当院での脊椎低浸襲手術について
(整形・脊椎外科)

当院の運営に対し有識者から意見をお聞きできる場であり、上記各報告についてだけでなく、その他当院の様々な問題点についてもご指摘をいただける。

3 課題

委員の方からご意見をいただいた場合、担当部署が責任をもって改善に向けた行動に繋げることが必要である。

4-7 治験・受託研究

1 データ

	27年度	28年度	29年度
治験実施件数	34件	33件	35件
自主臨床試験件数	66件	71件	79件
市販後調査件数	64件	60件	58件

2 成果

個人情報保護法等の改正に伴う研究倫理指針の改正への対応のため、自主臨床研究の体制整備を行った。手順書の整備、試験の進捗管理体制の整備および研修体制の整備を実施し、実施中の自主臨床試験の実施状況を把握し指針改定への対応を実施した。研修については、研究者への実施前の研修義務を明確にした。これに伴い、臨床研究に関する初回研修セミナーを2回（ビデオ講習は各4回）開催し、継続研修セミナーを2回開催した。治験においては、実施率の向上を目標とし、CRCとの連携強化を図り取り組んだところ、4試験で追加症例の契約に至った。前年度と比較して治験実施件数は同等の件数であり、自主臨床試験では8件の増加であった。

また、29年度新規治験受託件数は11件であり、そのうちの1件は初めての医療機器治験であった。新規受託治験の内訳は下記のとおりである。

- ・ 冷凍アブレーションシステムに関連した医療機器試験1件
- ・ 喘息患者を対象とした非盲検投与試験1件
- ・ うっ血性心不全患者を対象とした臨床薬理試験1件
- ・ 慢性心不全患者を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験1件
- ・ がん疼痛患者を対象とした第Ⅲ相試験1件
- ・ アトピー性皮膚炎患者を対象とした第Ⅲ相試験2件
- ・ 2型糖尿病患者を対象としたプラセボ対照二重盲検比較試験1件
- ・ アトピー性皮膚炎患者を対象とした長期安全性及び有効性を評価する多施設共同二重盲検第Ⅲ相試験1件
- ・ 敗血症に伴う頻脈性不整脈に対する無治療を対照とした非盲検無作為化並行群間比較試験1件
- ・ 慢性咳嗽を有する日本人成人被験者を対象とした第Ⅱ相臨床試験1件

3 課題

治験に関しては、昨年度に導入した治験管理システムの運用を定着できるよう進めていく。また、治験受託件数の増加に向けて、各診療科への働きかけを実施し未実施の診療での治験実施につなげていく。

自主臨床研究においては、臨床研究法へ対応した体制整備を進めるとともに、他施設との連携を図る。さらに、試験の実施状況について把握できる体制を整えられるよう研究者との情報共有に努めていく。

4-8 患者・市民に対する相談・啓発活動

1 安全講習会開催実績

(1) 赤十字救急法短期講習会

平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
開催日	参加者	開催日	参加者	開催日	参加者
7 月 22 日	5 人	5 月 13 日	12 人	5 月 17 日	30 名
12 月 2 日	15 人	10 月 28 日	20 人	6 月 28 日	7 名
1 月 22 日	3 人	11 月 16 日	16 人	7 月 20 日	8 名
		11 月 17 日	21 人	9 月 15 日	4 名
		11 月 29 日	21 人	10 月 28 日	3 名
		12 月 21 日	30 人	11 月 20 日	11 名
		1 月 17 日	10 人	11 月 28 日	16 名
		2 月 8 日	23 人	12 月 20 日	10 名
3 回	23 人	8 回	153 人	8 回	89 人

(2) 赤十字救急法基礎講習・救急員養成講習会

平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
開催日	参加者	開催日	参加者	開催日	参加者
3 月 28 日 ～30 日	51 人	3 月 28 日 ～30 日	35 人	3 月 27 日 ～29 日	36 人

(3) 赤十字健康生活支援講習会（短期講習会）

平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
開催日	参加者	開催日	参加者	開催日	参加者
8 月 6 日	10 人	8 月 2 日	9 人	8 月 2 日	12 人
10 月 1 日	15 人	10 月 6 日	13 人	10 月 16 日	42 人
1 月 22 日	4 人	10 月 20 日	43 人	3 月 6 日	15 人
2 月 19 日	4 人	11 月 16 日	13 人	3 月 9 日	15 人
		2 月 17 日	1 人		
		3 月 2 日	20 人		
4 回	33 人	6 回	99 人	4 回	84 人

(4) 水上安全法講習会（着衣泳の短期講習会へ指導員職員を派遣）

平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
開催日	参加者	開催日	参加者	開催日	参加者
7 月 15 日	169 人	7 月 15 日	70 人	7 月 14 日 7 月 19 日	73 人 63 人
1 回	169 人	1 回	70 人	2 回	136 人

2 成果

患者さんや来院者が院内のどこで倒れても、最初に発見した職員が対応できることを目指して、平成 28 年度から始めた事務系職員、委託会社社員等を対象にした、一時救命処置講習会を継続して実施した。

講習会を受講した委託会社社員等が急変した来院者の第一発見者となり、講習会の学んだ手順や知識が発揮される事例も発生している。

3 課題

患者さんや来院者がより安全に院内で過ごせるよう、来年度も引き続き、一時救命処置の講習会を継続していきたい。

4-9 患者サービス

1 データ

<患者満足度調査結果>

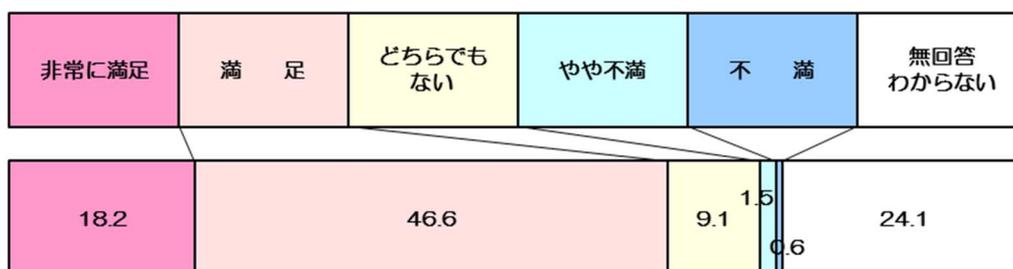
・平成27年度

【この病院に対する全体的な評価】

入院（有効回答数 515件）



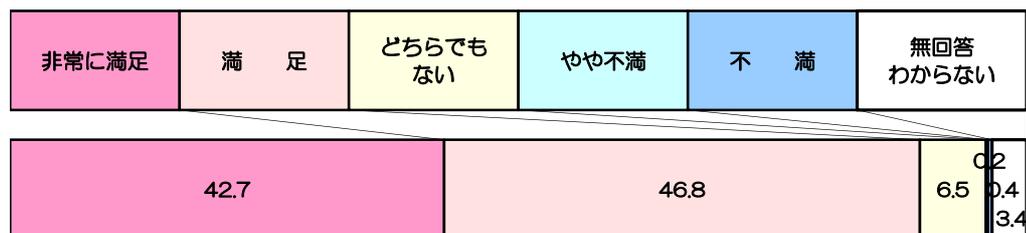
外来（有効回答数 685件）



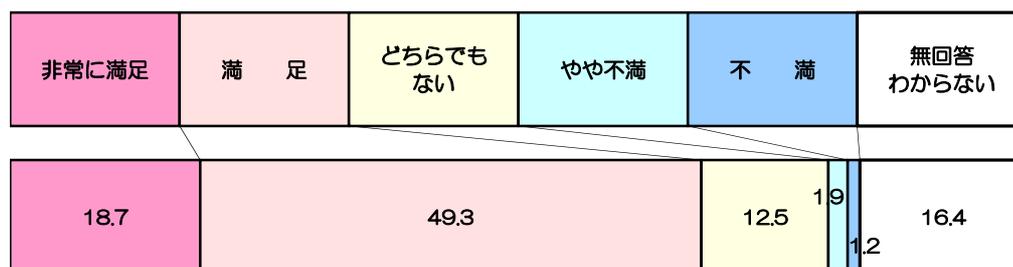
・平成28年度

【この病院に対する全体的な評価】

入院（有効回答数 494件）



外来（有効回答数 641件）



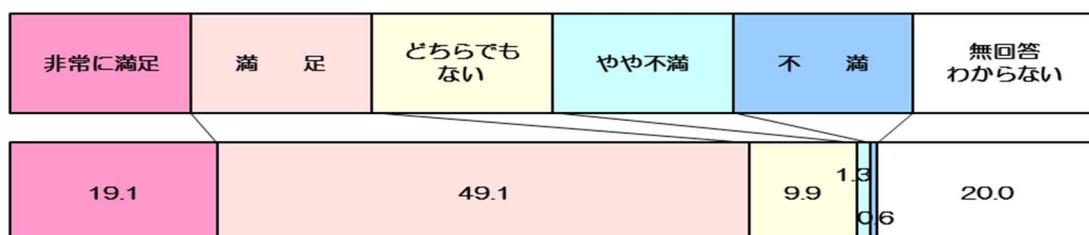
・平成29年度

【この病院に対する全体的な評価】

入院（有効回答数 581件）



外来（有効回答数 676件）



<病院ボランティア活動>

・平成29年度 病院奉仕団実施行事

5月13日（土）かながわ赤十字フェスティバル2017

5月14日（日）かながわ赤十字フェスティバル2017

6月6日（火）ANAすずらんイベント

6月17日（土）緩和ケア病棟「紫陽花の会」

7月7日（金）病院ボランティア養成講座

9月16日（土）緩和ケア病棟「秋の音楽会」

9月24日（日）「オータムコンサート」

10月4日（水）日赤神奈川県支部130周年記念行事

10月15日（日）院内患者図書室整備

12月9日（土）総合防災訓練

12月16日（土）緩和ケア病棟「クリスマス会」

12月24日（日）「クリスマスコンサート」

2月16日（金）病院ボランティア養成講座

3月24日（土）アレルギーを考える横浜市民フォーラム

・その他の活動

・ガーデニング：第2・4水曜日

<作業部会>

・パッチワーク：第1・3金曜日

・車いす清掃：第1・3金曜日

・緩和ケアセンター内での活動：毎週金曜日

・緩和ケアセンター「がんサロン」のサポート

・病院が実施する災害訓練への協力

・アレルギーセンター主催「市民セミナー」への協力

2 成果

サービス向上委員会については、毎年「患者満足度調査」「みなさまの声・ご提案」によって集積される患者さんのご意見を分析し、患者サービス向上への取り組みを行っている。今年度実施した患者満足度調査においても好評をいただいている。

29年度は、外来ホールへのロビーチェア増設、正面入口等への自動傘袋入れ機の設置及び再来受付機横への荷物置き台の設置等の環境整備をすすめた。

外国籍の患者が増えてきている現状において、医療行為に係る通訳は、今年度もMICかながわと契約を締結し医療通訳者の派遣を依頼したほか、医療行為以外の内容については、外国語で患者対応ができる職員に委嘱状を交付し、通訳を実施した。また、28年度から開始した通訳専用のタブレット端末の運用を継続しており、年間の利用件数は入院・外来あわせて延45件となった。

カスタマーリレーションセンターでは、8階特別室の紹介用DVDを入院支援センター内で放映し、患者へのPRをすすめた。

ボランティア活動は、みなと赤十字病院奉仕団の病院ボランティアの方々に協力いただき、イベント支援や車いす清掃、敷地内のガーデニング、外来患者さんの案内を実施している。

3 課題

1階のコンビニエンスストア及びレストランの案内表示がわかりにくいとの意見を踏まえ、引き続き設置場所や見やすいサインの設置について引き続き検討する。

また、年度後半から会計待ち時間が伸びている状況にあり、スタッフの確保・スキルアップをはじめとした待ち時間短縮の取組を重点的に進める必要がある。

職員の接遇をより向上させるのはもちろんのこと、患者の思いに寄り添った対応ができるよう院内研修を企画し実施していく。

4-10 医療データベースの構築と情報提供

1 成果

- 電子カルテシステムの検討とメンテナンスの実施
各部門とのワーキングにて、システムの機能と運用の検討を重ね、平成29年7月に電子カルテのリプレイスを実施し改善を図った。特に医療安全に係る情報共有については、プロファイル連携を強化することで機能改善した。
- リプレイスを機に部門システムとの連携を強化し、診療 DWH や医事 DWH を活用し、統計データの作成を実施した。また、看護管理データについては前年度検討した結果を踏まえシステム化し運用を開始した。
- 情報提供、データ分析においては、前年度に引き続き外部講師の活用により DPCデータの分析等、病院の立ち位置を含む情報提供を定期的の実施できた。

2 課題

- データの2次利用において、医師の症例登録等、直接の診療業務以外でのデータ利活用については、効率的に実施できるよう電子カルテのリプレイスにてシステムのベースを作った。今後は具体的に活用できるようシステム検討を継続する。
- 医療安全にかかわる部分については、アレルギー連携の強化など実装できた部分があるが、今後はシステムを活用する運用面における周知徹底が課題である。

5 職員研修

5-1 職員研修（医師）

1 データ

①事業実績

（研修会等名）	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
モーニングセミナー	年間 58 回	年間 57 回	年間 59 回
医学生向け見学会	年間 3 回 (54 名参加)	年間 4 回 (66 名参加)	年間 3 回 (117 名参加)
Morbidity and Mortality Conference	年間 4 回	年間 4 回	年間 4 回
講演会	年間 2 回	年間 4 回	年間 2 回
新規採用者 オリエンテーション	4 月 1 日開催	4 月 1 日開催	4 月 3 日開催
新規採用医師対象 オリエンテーション	4 月 6 日開催	4 月 4 日開催	4 月 4 日開催
新規採用研修医 オリエンテーション	4 月 3 日、6～10 日 (6 日間)	4 月 5～7 日 (3 日間)	4 月 5～10 日 (3 日間)
チーム医療 ワークショップ	年 2 回	年 2 回	年 1 回
院内 CVC ライセンス 制度	認定試験 1 回 指導者試験 2 回	認定試験 4 回 指導者試験 2 回	認定試験 2 回 指導者試験 2 回
指導医養成講習会	-	年間 1 回	-
JMECC	-	年間 1 回	年間 1 回

②定員数（採用数）

（研修医）定員数（採用数）

平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
13 (13)	13 (13)	13 (12)	11 (10)

（研修歯科医）定員数（採用数）

平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
1 (1)	1 (1)	2 (2)	2 (2)

（整形外科 専攻医）定員数（採用数）

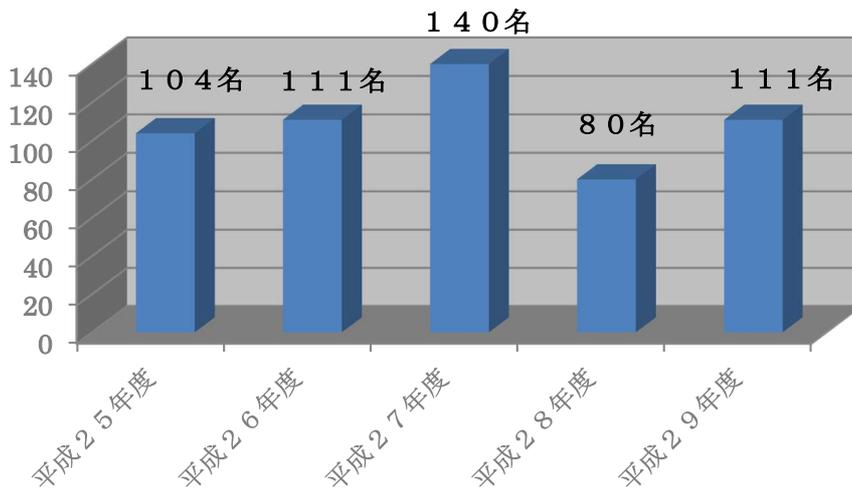
平成 29 年度	平成 30 年度
2 (1)	2 (1)

(上記以外の専攻医) 平成30年度 定員数 (採用数)

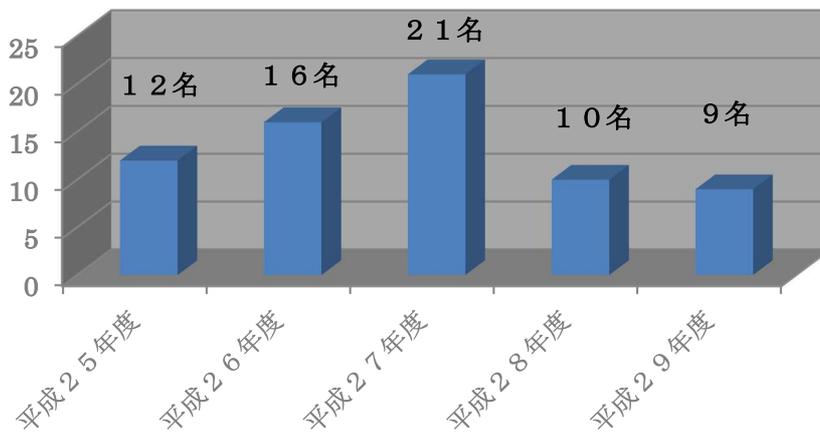
内科	外科	救急科	麻酔科
7 (3)	2 (1)	6 (2)	2 (0)

③病院見学者数 (のべ人数)

医学生実習・見学者数



歯学生実習・見学者数



2 成果

臨床研修については、研修医に対する指導医からの評価に加え、他職種からの評価を平成29年度より実施した。

後期研修・専門研修については、整形外科で専門医制度が平成29年度より開始されたが、平成30年度より本格的に開始されるのにあたり、プログラム整備や連絡協議会の開催等を行った。また、初めて合同病院説明会に参加し、採用活動を行った。

さらに、臨床教育研修センター室の移動に伴い、スキルラボ室の運用や管理機材の貸出等について見直した。

3 課題

平成 29 年度より開始した専門医制度（基幹プログラム）の環境整備、体制整備が必要である。

また、臨床研修についても研修医向けセミナーの運営、医学生の実習・診療科見学の対応の見直しが必要である。

5-2 職員研修（看護部）

1 データ

1) ラダー認定者数・院外研修受講者数等

項目	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
実践者ラダーレベルⅠ認定	44 人	58 人	54 人
レベルⅡ認定	50 人	43 人	38 人
レベルⅢ認定	20 人	14 人	13 人
管理者ラダーレベルⅠ認定	2 人	2 人	4 人
レベルⅡ認定	1 人	1 人	0 人
ラダー研修	75 回	78 回	78 回
新人技術研修	8.5 日	7.5 日	7.0 日
院外研修(看護協会)	108 人	92 人	72 人
看護管理者ファースト研修	2 人	6 人	8 人
看護管理者セカンド研修	1 人	2 人	1 人
看護管理者サード研修	1 人	0 人	0 人
臨床指導者研修	2 人	2 人	5 人
認定看護師研修	1 人	1 人	1 人
学会発表・参加	66 人	69 人	57 人

2) 院内ラダー研修実績

レベル	研修名	回数	受講者数	レベル	研修名	回数	受講者数
実践者 レベルⅠ	フォローアップ	2	56	実践者 レベルⅢ	看護倫理Ⅲ	2	31
	医療と診療情報	1			看護研究	3	11
	フィジカルアセスメント	1			マネジメント入門	3	17
	多重課題	1			フィジカルアセスメント上級	4	17
	災害救護	1			認知症ケア	4	15
実践者 レベルⅡ	フィジカルアセスメント	5	62	レベルⅡ	口腔ケア	4	13
	実地指導者	5	39		退院支援	5	23
	赤十字と看護倫理	1	61		災害救護	3	60
	看護と診療報酬	1	52	レベルⅢ		1	25
	看護とコミュニケーション	1	46	初級		2	56
	ナラティブ	2	44	中級	1	60	
実践者 レベルⅢ	実地指導者	5	39	管理者 レベルⅠ	教育担当者	6	9
	リーダーシップとメンバーシップ	3	29		新任係長	6	8
					新任師長	5	5

2 成果・課題

1) 看護職員のキャリア開発

看護協会が主催する院外研修へ72名を派遣した。認定看護師教育課程への派遣は1名（脳卒中リハビリテーション看護）や学会発表・参加は57名が参加できた。看護部としての人材育成に力を注ぎ、院外の研修のみならず、院内のラダー研修も計78回のレベル別研修を開催した。当院が求める看護師は、部署において、急性期医療の中で患者の権利を擁護し、医療チームの推進者としてのリーダーシップを有した看護師である。レベルⅠ、Ⅱの取得は定着しており、レベルⅢを取得できるようキャリアを支援している。その結果、レベルⅢの認定者は年々増え、29年度は13名が認定を受けた。院内全体は、81名の看護師がレベルⅢを取得している。今後は、こうしたレベルⅢ取得者のキャリア開発につながるレベルⅣの支援が課題としてあがる。

2) 看護管理者のキャリア開発

看護管理者ファースト研修には8名、セカンド研修には1名を派遣した。部署は、こうした管理者研修を受講修了した者が、係長、師長を担う看護部の体制づくりができた。師長、係長の管理者のラダーの取得状況は、今年度管理者ラダーレベルⅠ取得者は4名が取得した。院内全体では、レベルⅠ取得者は9名おり、取得者が年々増加している。しかし、レベルⅡ取得者では、増えておらず、今後の課題である。

管理者ラダーⅠの「新任係長研修」は、OJTに繋げることができている。28年度には、「新任師長研修」の研修を開始し、2年目となった。集合研修での学びだけでなく、研修の際の同じ職位での会話が管理者の活動意欲にもつながっている。また、取り入れている新任師長へのメンター制度は、新任師長の心の拠り所ともなったようである。

新任師長、係長においては、院内研修で補っている状況がある。しかし経験を重ねた管理者が、自己のキャリア開発について取り組むことのできる管理者育成が課題としてあがる。

3) 研修計画の再構築

これまでであったラダー研修計画と施設基準で求められている研修、役割として必要とされている研修、赤十字施設としての必要な研修とを分割した。これで看護師の研修は「実践者・管理者ラダーレベル別研修計画」と「看護部における役割研修計画」の2本を柱として構築をめざし、完成した。平成30年度は、こうした新研修体系で研修に取り組むこととなる。

4) 「ラダーの葉」の改定

毎年改定している「ラダーの葉」を見直し、大幅に改定した。師長会でも改訂内容を伝達し、スタッフへの通達に差が生じないように努めた。レイアウトも修正し、より読みやすく、理解しやすい「ラダーの葉」が完成した。

レベル分類	研修会名	担当者	研修委員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
レベル I	ファイジカルアセスメント	※田原(代) 朝比奈(株) 関口(株) ○清土(7B)	上野	オリエンテーション (院内)(支部) テクニカルエック ⇒年間 新人技術研修①~⑩ 4/24 看護必要度 (15:30~17:00)	5/12 新人技術研修① 5/19 新人技術研修⑩ (8:30~17:00)	6/7 ファイダーアップ研修① (15:30~17:00)	7/6 医療と診療情報 (記録委員会) (16:00~17:00)		9/12 一次救命処置 (急病時のアセスメント) (16:00~17:30)	10/25 多量課題演習 (16:00~18:00)	11/6 神経注射 基礎 I-③ (18:00~17:30)	12/1 多量課題(観察)各部署 11/1~12/31	1/12 ファイダーアップ研修② (15:30~17:30)		
				5/10 研修① (17:00~18:30)	7/3 研修② (17:00~18:30)	8/7 看護と診療情報 (17:00~18:00)	9/6 研修③ (17:00~18:30)	10/4 研修④ (17:00~18:30)	11/15 研修② (17:00~18:30)	12/8 研修⑤ (17:00~18:30)					
レベル II	赤十字と看護倫理 II									赤十字と看護倫理 II (17:00~18:30)					
	看護と診療情報	※中川(株) 三井(株) 佐藤利(代)	上野												
レベル III	看護とコミュニケーション II								看護とコミュニケーション II (17:00~18:30)						
	ナラティブ														
レベル III	実地指導者	※重岡(代) 神田(株) ○三浦(代)	石林	研修① 3/22 (17:30~19:00)	研修② 5/8 (16:00~17:30)	研修③ 6/5 (16:00~17:30)	研修④ 8/4 (16:00~17:30)						研修⑤ 1/25 (16:00~17:30)		
	リーダーシップとメンバーシップ	※角屋(株) 西村(代)			研修① 5/22 (17:00~18:30)	研修② 7/28 (17:00~18:30)							研修③ 1/15 (17:00~18:00)		
レベル III	看護倫理 III	※丸(株) 萩原(株)	池田												
	看護研究(入門)	※藤田(株) ○笹子(代)			研修① 5/29 (17:00~18:30)		研修② 8/2 (17:00~18:30)						研修③ 1/31 (17:00~18:30)		
レベル III	マネージメント入門	※嶋田(株) ○藤井(代)				研修① 6/29 (17:00~18:30)	研修② 8/22 (17:00~18:30)						研修③ 1/26 (17:00~18:30)		
	ファイジカルアセスメント III	※佐藤里(株) 持田(教員)				研修① 6/23 (17:00~18:30)							研修④ 12/25 (17:00~18:30)		
レベル III	認知症ケア	上野(前) ○関ヶ谷(6B)	熊谷			研修① 6/12 (17:00~18:30)	研修② 7/10 (17:00~18:30)						研修④ 12/27 (17:00~18:30)		
	口腔ケア	大坪(前) ○内田(7A)			研修① 5/15 (17:00~18:30)	研修② 6/19 (17:00~18:30)	研修③ 8/23 (17:00~18:30)							研修④ 11/29 (17:00~18:30)	
レベル III	退院支援	※藤高(株) 佐伯(株)		研修① 4/28 (17:00~18:30)	研修② 5/31 (17:00~18:30)	④臨地研修 6/1~9/30	研修③ 8/28 (17:00~18:30)						研修⑤ 12/22 (17:00~18:30)		
	災害看護	※熊谷(前) 神田(株) 富本 永井(前)	熊谷			レベル II-① 6/28 (17:00~19:00)	レベル II-② 8/29 (17:00~19:00)		防災訓練 I-II 10/1~12/31	レベル III 10/27 (17:00~19:00)	レベル II-③ 11/24 (17:00~19:00)				
レベル III	基礎 I (レベル I に詳細)	※金沢(代) 重野(株)	上野	①4/13 集合技術研修内	②5/12 新人技術研修内						③ 11/6				
	基礎 II			4月入職者 4/4					5月~9月入職者 9/0		基礎 II 11/22 (16:00~17:30)				
レベル III	教育担当者研修	※向田(株) 西村(株)	石林	研修① 3/22 (17:30~19:00)	研修② 4/28 (16:00~17:30)	研修③ 6/2 (17:30~19:00)	研修④ 8/9 (16:00~17:00)						研修⑤ 12/13 (16:00~17:00)		
	新任係長研修	上野(前) 高松(前)	上野		研修① 5/7 (16:00~17:00)	研修② 6/8 (16:00~17:00)	研修③ 7/12 (16:00~17:00)	研修④ 8/9 (16:00~17:00)							
レベル III	新任係長研修	三好(前部) 上野(前)	上野	研修①3/10(16~17) 研修②4/18(16~17)		研修③ 8/21 (16:00~17:30)	研修④ 9/27 (16:00~17:00)						研修⑤ 2/21 (16:00~17:00)		

5-3 職員研修（薬剤部）

1 データ

部内研修実績

- ・ バランス・スコアカード (BSC)、Quality Indicator (QI) からの個人目標へのつなげ方 1回
- ・ ランチタイムセミナー 25回
- ・ 文献検索、DI 情報取扱いに関する研修 1回
- ・ がんに関する勉強会 8回
- ・ 感染に関する勉強会 3回
- ・ 精神科関連の勉強会 1回
- ・ 輸液に関する勉強会 5回
- ・ 他職種を講師として招聘して行った勉強会 1回
- ・ 外部講師を招聘して行った勉強会 1回
- ・ 学会報告会 17回（複数人数での報告会）
- ・ 病棟関連業務に関するオーディット及び勉強会 13回
- ・ 共有事例研究 3回

学会発表

- ・ 日本医療薬学会 2演題
- ・ かながわ薬剤師学術大会 1演題
- ・ 日本腎臓病薬物療法学会総会 1演題
- ・ 日赤医学総会シンポジウム 1演題
- ・ 日本癌治療学会学術集会 1演題
- ・ 日本緩和医療薬学会 1演題
- ・ 日赤薬剤師会総会シンポジウム 1演題

講演

- ・ 横浜・鎌倉病院薬剤師講演会 1演題

2 成果

- ・ 薬剤部内において部員会でのプログラムの作成し、部内研修委員を中心に部員会をはじめとした研修の質の向上に努めている。
- ・ 専門、認定薬剤師取得を見据えた研修及び学会に積極的に参加し、その結果について部内フォーマットによる書面報告や部員会における口頭報告を実施し、その成果を部全体で共有している。また研修成果として学会発表（論文投稿を含む）を積極的に行っている。
- ・ BSC と QI、教育ラダーをもとに、個人目標シートを作製し、年2回～3回の面談を実施し目標達成度と次の目標を確認しながら所属長および研修担当と各職員が情報を共有することとし継続的に実施している。

3 課題

- ・薬剤師教育ラダーを活用し教育・評価を行っていく
- ・専門、認定薬剤師取得者を増やし、その知識を生かした薬物療法につなげるため、研修、学会への参加を更に積極的に進める。また、他施設からの見学及び研修も積極的に受け入れ、こちらからも研修や見学に出向き、よりよい環境に繋がられるよう努力する。
- ・設定した個人目標を確実に達成させ、個々の質を高めるとともに薬剤部全体の質を高めるよう目標シートの活用や部員会の充実に努める。

5-4 職員研修（医療技術部門）

1 データ

研修会名	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
新規採用者オリエンテーション	4 月開催	4 月開催	4 月開催
インシデント報告ツール説明会	4 月開催	4 月開催	5 月開催
医療技術部門合同研修会	年間 5 回開催	年間 6 回開催	年間 2 回開催
チーム医療ワークショップ	年間 2 回開催	年間 2 回開催	年間 1 回開催
各部門研修（5 部門）	年間 40 回開催	年間 69 回開催	年間 75 回開催

2 成果

医療技術部門全体で行う研修企画（開催）を減らし、一方で各部門毎の研修・勉強会を増やした。

部署による取り組みの差はあるが、全部署で実施し、成果を上げることができた。

3 課題

前年に引き続き、積極的な院内研修の参加、各部門内での研修の実施をサポートするとともに、専門職の認定資格取得、学会発表を推進していく。

5-5 職員研修（事務部）

1 データ

	平成 28 年度	平成 29 年度
レベル 1 (入社 1 年目)	対象者 8 人 総合案内研修、他部署体験、 コミュニケーションスキル研修 など 11 回	対象者 6 人 総合案内研修、他部署体験、 コミュニケーションスキル研修 など 12 回
レベル 2 (入社 2 年目)	対象者 4 人 業務改善成果発表 目標管理など 8 回	対象者 5 人 業務改善成果発表 目標管理など 9 回
レベル 3 (入社 3 年目 以降の主事)	対象者 40 人 ハイパフォーマー観察研修 など 13 回	対象者 49 人 ハイパフォーマー観察研修 など 6 回
レベル 4 (係長クラス)	対象者 15 人 新人教育研修、会計制度研修 など 5 回	対象者 12 人 労務管理の基礎、年度目標評価 など 2 回
レベル 5 (課長クラス)	対象者 13 人 コーチング講習会、目標管理研修 など 2 回	対象者 12 人 災害対策、経営改善院内講習 など 4 回

2 成果

レベル別教育研修のうち、レベル 1 及び 2 については、研修内容および習熟度の判定（効果測定）についても定着し、レベル 3 については、部門横断的に共通してテーマや、主体性を尊重した個別の研修を実施することができた。

レベル 4 及 5 については、労務管理や経営改善をテーマにした講演会を開催し、新たな知識の獲得や認識を改めることができた。

3 課題

レベル 3 対象者職員は、人数・経験年数も幅広く、組織の中で実務の中核をなすため、勤務時間内の研修開催は全員が参加できず、研修会の開催方法や受講管理のあり方が課題である。

また、将来の組織運営を見据えた管理監督者層（レベル 4・5）の育成も課題となっている。

6 院外からの研修受入れ

6-1 院外からの研修受け入れ（看護部）

1. データ

1) 研修受け入れ数（添付資料参照）

(1) 看護基礎教育実習

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
受け入れ総数	387 名	395 名	449 名

(2) 卒後教育実習

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
受け入れ総数	11 名	13 名	11 名

2) 実習指導者研修

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
実習指導者研修修了者数※	20 名	24 名	29 名

※看護師長、日本赤十字看護大学実習指導者研修は含めず

2. 成果と課題

1) 基礎教育実習と卒後教育実習の受け入れ

(1) 基礎教育実習は、今年度計画した 2 大学（日本赤十字看護大学、創価大学）、3 看護専門学校（神奈川県立よこはま看護専門学校、神奈川県立衛生看護専門学校、横浜市病院協会看護専門学校）を受け入れた。今年度は、昨年より多い 449 名の学生を受け入れた。今後も神奈川県内の看護学生の受け入れを増やすように計画する。

(2) 卒後教育では、認定看護師養成課程、認定看護管理者養成課程、大学院修士課程等の学生を 11 名受け入れた。当院には乳がん看護認定看護師が在籍しているため、今年度新規に研修生を受け入れた。こうした研修生への指導の機会は、認定看護師の実績になるだけでなく、現場へもよい影響が得られた。今後も積極的に卒後教育実習の受け入れを増やしたい。

2) 実習指導者の育成

今年度は、実習指導者研修（長期）に 4 名派遣した。実習指導者の長期研修修了生がまだまだ不足している現状がある（本社が目指す「長期研修修了者 1 部署 2 人以上」を満たしていない部署は、対象部署 16 部署中 8 部署）。そのため、日本赤十字看護大学フロンティアセンターでの実習指導者育成のための研修へ積極的に派遣した（11 名）。次年度は、初めて実習を受け入れる緩和病棟や救急病棟がある。今後も長期実習指導者研修生が増員できるよう計画的な育成を目指す。

6-2 院外からの研修受入れ（薬剤部）

1 データ

研修名	27年度	28年度	29年度
薬科大実務実習	15名	16名	18名
早期体験実習	25名	24名	24名
学生版薬薬連携実習	27名	34名	31名

2 成果

薬科大実務実習では、提携大学数を拡大しコアカリキュラムのプログラムを中心に臨床現場に重点を置き、学生一人一人に実習担当として薬剤師を配置して臨床に則した実習を行った。また、薬薬連携を目的とし近隣調剤薬局の学生とともに当院の患者に対する症例検討を学生版薬薬連携実習として実施した。また薬科大の早期体験実習、中学生の職場体験実習、神奈川県病院薬剤師会実務実習の受け入れを行った。

3 課題

30年度の実務実習では、新コアカリキュラムを見据えた実習内容を実現させる足掛かりとするため、患者を継続してモニタリングできる環境をつくりながら、病棟業務を中心とした臨床に則した充実した実務実習を実施する。その他の実習や海外からの研修の受け入れについても積極的に行っていく。

6-3 院外からの研修受け入れ（リハビリテーション科部）

1 データ

リハビリテーション実習生受け入れ状況

平成 27 年度：理学療法評価実習生	1 名	理学療法臨床実習生	2 名
作業療法評価実習生	1 名	作業療法臨床実習生	1 名
平成 28 年度：理学療法評価実習生	1 名	理学療法臨床実習生	4 名
作業療法評価実習生	1 名	作業療法臨床実習生	1 名
平成 29 年度：理学療法評価実習生	1 名	理学療法臨床実習生	4 名
作業療法臨床実習生	3 名		

2 成果

平成 29 年度も理学療法及び作業療法学生の実習を受け入れることができた。作業療法は前年度に比べ 1 名多く受け入れ、全て長期の臨床実習とした。実習を通して、学生には急性期リハビリテーションについて学習する良い機会となった。また、実習指導を担当したスタッフは、後輩の育成についての研鑽を積む機会を得ることが出来た。

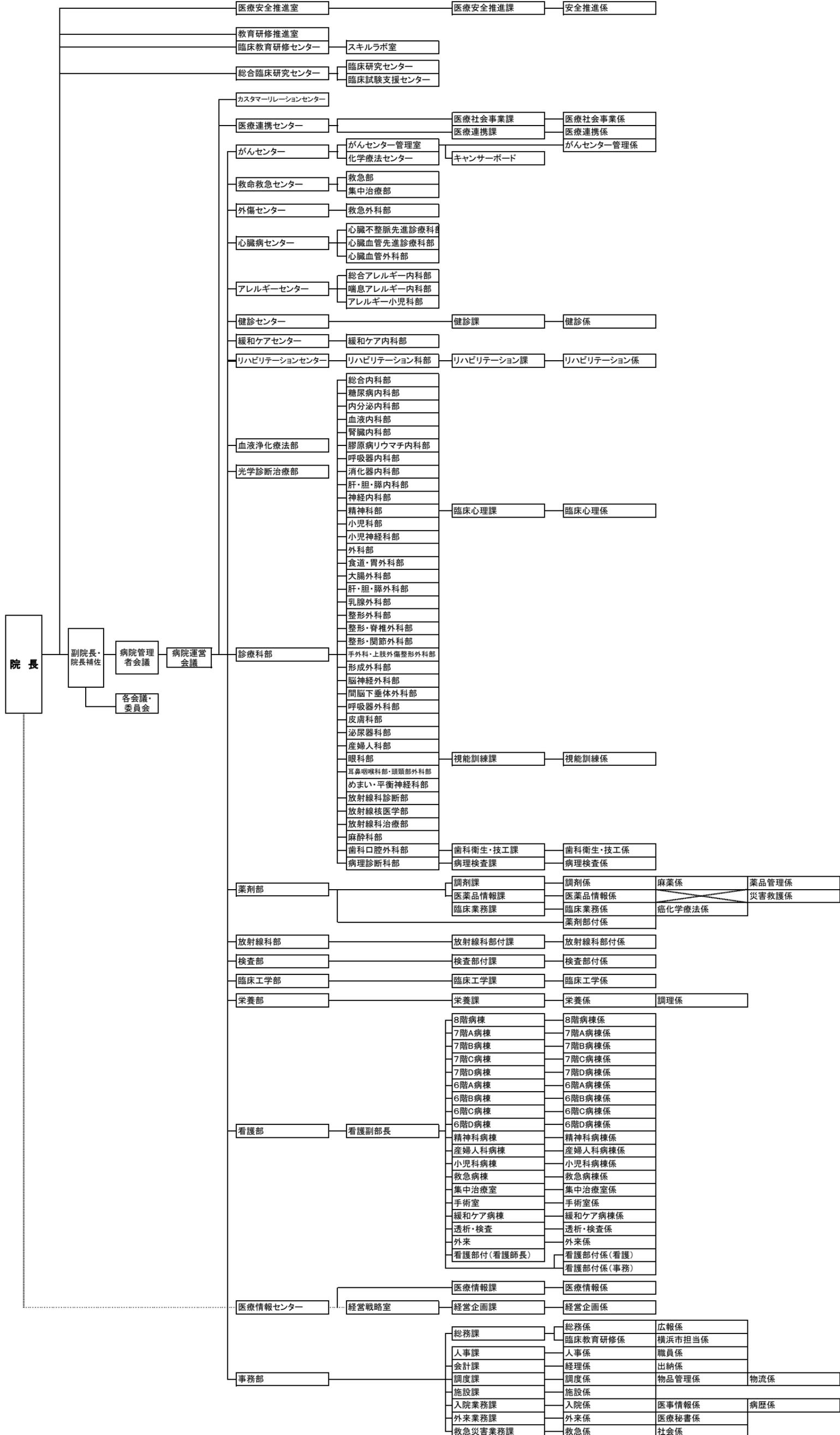
3 課題

実習生を受け入れる上で問題になるのが、実習担当スタッフの時間的、精神的負担であることは従来と変わらない。リハビリテーションスタッフは 1 単位 20 分という時間の制約のなかで、患者の診療に関わるため、どうしても超過勤務を余儀なくされてしまう。その中でいかにして、後輩たちを優秀な人材に育て、担当スタッフのスキルをどう向上するかという課題に取り組んでいる。

現在、臨床実習指導者の資格について、新たな規定を関係団体が検討しており、今後はそれらについても情報収集しながら、速やかに対応する必要がある。

7 職員

横浜市立みなと赤十字病院 組織図 2017.4.1



7-2 職員配置状況

職 種		配置 人員数	内 訳			備 考
			常勤	非常勤	派遣職員等	
管 理 部 門	事 務 職 員	201.0	63	26	112	看護師2名含む
	技 術 職 員	2.0	2	-	-	
	運 転 手	0.0	-	-	-	
	ボイラー技師	0.0	-	-	-	
	電 話 交 換 手	3.0	-	-	3	
診 療 部 門	医 師	225.0	125	100	-	
	歯 科 医 師	4.0	3	1	-	
看 護 部 門	看 護 師	641.0	626	15	-	
	准 看 護 師	1.0	1	-	-	
	看 護 助 手	58.0	29	21	8	
	事 務 職 員	19.0	2	1	16	保育士1人含む
健 診 部 門	看 護 師	4.0	4	-	-	
	事 務 職 員	11.0	3	-	8	
連 携 部 門	社 会 福 祉 士	8.0	8	-	-	
	精神保健福祉士	2.0	1	1	-	
	看 護 師	5.0	5	-	-	
	事 務 職 員	10.0	8	1.0	1	
検 査 ・ 医 療 技 術 部 門	薬 剤 師	41.0	41	-	-	
	診療放射線技師	36.0	33	3.0	-	
	臨床検査技師	40.0	38	2.0	-	衛生検査技師1含む
	理学療法士	19.0	19	-	-	
	作業療法士	9.0	9	-	-	
	言語聴覚士	4.0	4	-	-	
	マッサージ師	0.0	-	-	-	
	臨床工学技士	11.0	11	-	-	
	視能訓練士	2.0	2	-	-	
	歯科衛生士	4.0	3	1.0	-	
	臨床心理士	2.0	2	-	-	
	管理栄養士	10.0	9	1.0	-	
	栄 養 士	0.0	-	-	-	
	調 理 師	6.0	6	-	-	
事 務 職 員	4.0	-	-	4	治験事務の派遣・委託	
その他		4.0	0	1.0	3	アレルギーセンター事務
合 計		1386.0	1057	174.0	155	

8 施設管理

8-1 医療機器の整備状況

購入単価500万円以上のもの

	部門名ごとに整理 (中央・看護・管理・診療等)	機器名称	用途	新規・更新
1	中央	X線画像診断システム(FPD)	手術用	新規
2	診療	X線画像診断システム(FPD)	救急外来用	新規
3	中央	全自動散薬分包機	調剤用	更新
4	中央	X線アンギオグラフィシステム	手術用	新規
5	中央	アンギオワークステーション	手術用	新規
6	中央	モニタ	手術用	新規
7	中央	無影灯	手術用	新規
8	中央	経食道超音波画像診断装置	手術用	新規
9	中央	EPLレコーディングシステム	手術用	新規
10	中央	筋電図・誘発電位検査装置	検査用	更新

8-2 施設設備改修報告

(平成29年度)

	部門名ごとに整理 (中央・看護・管理・診療等)	施設・設備名称	面積(m ²)	用途	新規・修繕
1	3階手術室	ハイブリッドOP改修工事	142.4	手術室7番をハイブリッド手術室へ変更	修繕
2	5階スキルラボ室	臨床教育研修センター移設工事	43.4	スキルラボ1に間仕切りを設置し、臨床教育研修センターを移設。	修繕
3	6B病棟13号室	6B病棟13号室2・3ペット空調機移設工事	36.4	6B病棟13号室2・3ペット空調機を通常の設置位置から部屋中央へ移設	修繕
4	エネルギーセンター等棟	空調二次系統電気料金省エネ改良工事	—	消費電力削減のため、空調二次側ポンプ(冷水、温水、冷温水4台ずつ)にエコバロットインバーター機器及び附属機器を設置	新規

8-3 施設設備管理報告 法定及び自主点検業務

法定点検業務等	点検種別	周期	実 施 月												関連法規及び保守管理基準			
			平成29年(2017年)						平成30年(2018年)									
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
特定建築物	定期検査	1回/1~3年							●									建築基準法
昇降機設備	定期検査	1回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	建築基準法
自家発電設備(コジェネ発電)	定期検査	1回/年		●	●							●						電気事業法・消防法
ボイラー	性能検査	1回/年			●													労働安全衛生法
第1種圧力容器	性能検査	1回/年			●													労働安全衛生法
コンドミニアム(H29.12.5~H30.12.4まで休止中)	性能検査	1回/年																労働安全衛生法 (H29.1.13休止届提出)
第2種圧力容器	自主検査	1回/年			●	●												労働安全衛生法
小型ボイラー設備	自主検査	1回/月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	労働安全衛生法
簡易専用水道	定期検査	1回/年							●									水道法
ガスタービン(ガス圧縮機)	定期検査	1回/3年																電気事業法 (H27年度実施次回H30年度)
消防設備	定期検査	2回/年						●								●		消防法
地下タンク貯蔵所	定期検査	1回/3年																消防法(27年度実施次回30年度)
避難はしご設備	自主点検	2回/年						●										消防法
高圧ガス製造設備	自主点検	1回/年							●									高圧ガス保安法
医療ガス設備	定期点検	4回/年		●														高圧ガス保安法
特定施設(水質測定)	定期点検	1回/月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	下水道法
ばい煙測定	定期検査	2回/年			●													大気汚染防止法
特高受変電設備定期検査	定期検査	1回/年								●								電気事業法
高圧受変電設備定期検査	定期検査	1回/年								●								電気事業法
無停電電源設備保守及び定期点検	定期検査	1回/年										●						電気事業法
(非常用照明)	定期検査	(1回/年)																電気事業法
直流電源設備保守及び定期点検	定期検査	1回/年																電気事業法
電力中央監視設備保守及び定期点検	定期検査	1回/年													●			電気事業法
建築設備定期検査	定期検査	1回/年																建築基準法
受水槽・高架水槽定期清掃	定期検査	1回/年												●				水道法
飲料水水質検査	定期検査	2回/年												●				水道法
害虫定期駆除	定期検査	1回/月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	ビル管理法

8-4 外部委託（平成29年度）

	委託業務の名称	主な業務内容	受託者（会社名）	主管部署
1	食事療養提供業務	患者用給食の調理、給食材料管理補助、食器洗浄等衛生管理補助、配膳・下膳業務	日清医療食品株式会社	栄養課
2	中央滅菌材料室・手術室器材の洗浄・滅菌業務	使用済器材の回収・洗浄・滅菌・供給業務	日本ステリ株式会社	調度課
3	検体検査業務	検体検査業務	株式会社ビー・エム・エル	検査部
4	患者用ベッド洗浄業務	ベッド等の清拭・定期点検業務	株式会社柴橋商会	調度課
5	寝具賃貸借及び洗濯業務	患者用寝具・職員当直用寝具賃貸借業務、洗濯全般業務	株式会社サンビームランドリー	調度課
6	白衣等リース業務	看護師、看護助手、SPDの白衣及びタオルのリース	株式会社柴橋商会	調度課
7	白衣等リース業務	医師、コメディカルの白衣のリース	株式会社サンビームランドリー	調度課
8	SPD物流管理サービス業務	医療材料の物流管理業務	株式会社ホスピタルパートナーズ	調度課
9	医薬品院内物流管理業務	購買管理補助業務 薬品在庫管理業務 配置定数薬の補充管理業務 搬送業務等	東邦薬品株式会社	薬剤部
10	医事関連業務	外来部門の計算・受付・クラーク業務及び保険請求関連業務	株式会社ソラスト	入院業務課 外来業務課
11	健診センター関連業務	受診者対応、会計・計算業務等	株式会社ソラスト	健診センター
12	医療情報センター関連業務	医事統計の作成、データ分析、システム障害対応等	株式会社ソラスト	医療情報課
13	治験事務関連業務	治験事務局支援業務及び治験審査委員会事務局支援業務	株式会社イスモ	薬剤部
14	病棟クラーク業務	入退院手続、書類作成、入院患者の面会者対応	株式会社日本教育クリエイト	看護部
15	院内保育所運営業務	職員子女の保育業務	株式会社ポピンズ	総務課
16	施設管理	施設設備の運転及び点検業務	高砂丸誠 エンジニアリングサービス株式会社	施設課
17	警備業務	院内外の警備業務	株式会社K S P	施設課
18	清掃業務	外回り外来部門・病棟・手術室・事務室等院内清掃業務	高砂丸誠 エンジニアリングサービス株式会社	施設課
19	産業廃棄物処理業務	院内から出されるゴミの収集運搬及び処理業務	株式会社神奈川保健事業社	施設課
20	一般廃棄物処理業務	院内から出されるゴミの収集運搬及び処理業務	株式会社神奈川保健事業社	施設課
21	感染性廃棄物収集運搬処理業務	院内から出される感染性廃棄物の収集運搬及び処理業務	株式会社トキワ薬品化工	施設課
22	医薬品(医療ガス)供給業務	医療用液体酸素・医療用液体窒素・医療用酸素ガス等の供給業務	株式会社イワサワ	施設課
23	ナースコール設備保守点検	ナースコール設備保守点検	株式会社ケアコム	施設課
24	院内ネットワークシステム保守点検	院内LANシステム保守点検	富士ゼロックス神奈川株式会社	医療情報課
25	自動尿測定システム保守点検	自動尿測定システム保守点検	円田医科工業株式会社	施設課

9 經營報告

平成29年度

診療科別患者数等管理数値

診療科	外来(244日)						入院(365日)						救急患者							
	新患者数		延患者数		1日平均		新入院数		退院数		延患者数		1日平均		在院日数		救急患者			
	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	全体	救急車	入院	入院率
総合内科	1,073	1,002	2,098	1,727	9	7	184	167	15	5	316	284	1	1	1.7	1.7	1,094	202	230	21.0
糖尿病内分泌内科	433	531	11,738	13,218	48	54	387	373	32	438	5,604	5,751	15	16	11.0	11.5	103	80	90	87.4
血液内科	161	162	4,077	4,053	17	17	441	369	37	438	8,259	7,075	23	19	17.2	16.9	47	28	41	87.2
腎臓内科	248	338	6,263	6,011	26	25	302	293	25	367	5,074	5,684	14	16	11.6	13.5	72	52	59	81.9
膠原病リウマチ科	217	262	8,166	7,914	33	33	105	125	9	142	3,064	2,950	8	8	18.5	15.7	27	22	23	85.2
緩和ケア内科	264	231	448	391	2	2	183	154	15	294	7,555	7,283	21	20	(30.4)	(35.8)	9	8	9	100.0
呼吸器内科	1,055	1,135	12,381	12,191	51	50	1,086	1,124	91	1,046	14,156	15,288	39	42	11.7	11.9	718	496	581	80.9
消化器内科	2,436	2,524	23,905	23,257	98	96	2,093	1,931	174	2,029	20,252	21,145	55	58	9.8	11.1	1,250	581	774	61.9
循環器内科	1,400	1,394	17,243	15,288	71	63	1,899	1,780	158	1,897	14,959	15,336	41	42	6.7	7.4	573	386	431	75.2
神経内科	569	636	7,263	7,483	37	39	549	569	46	582	12,555	14,494	34	40	19.3	22.5	457	345	382	83.6
アレルギー科	406	368	6,568	6,018	27	25	74	56	6	73	432	364	1	1	4.8	5.4	69	40	45	65.2
小児科	4,504	4,092	15,519	15,153	64	62	1,147	1,106	96	1,145	5,790	5,604	16	15	4.8	4.6	3,713	990	346	9.3
外科	561	611	9,237	9,774	38	40	1,106	1,124	92	1,128	12,147	13,684	33	37	9.7	10.4	302	152	234	77.5
乳腺外科	651	683	9,331	9,051	38	47	263	246	22	263	2,605	2,184	7	6	8.8	7.7	27	11	16	59.3
呼吸器外科	17	17	1,623	1,632	11	11	72	75	6	79	701	759	2	2	7.4	6.9	6	2	2	33.3
心臓血管外科	161	140	2,155	1,943	15	13	195	181	16	209	3,746	4,186	10	11	13.5	15.4	60	47	54	90.0
脳神経外科	868	827	3,819	3,721	27	25	417	397	35	409	7,576	7,802	21	21	16.5	17.9	754	331	343	45.5
整形外科	2,592	2,776	23,416	23,278	96	119	1,344	1,345	112	1,387	21,018	21,356	58	59	13.7	14.1	886	329	359	40.5
形成外科	562	617	3,598	4,339	19	22	116	112	10	123	1,517	2,265	4	6	10.7	15.8	184	14	11	6.0
皮膚科	1,275	1,434	9,969	11,302	41	47	142	147	12	143	1,485	1,430	4	4	9.0	7.8	223	27	38	17.0
泌尿器科	1,141	1,087	13,230	13,926	54	57	961	957	80	969	8,352	8,316	23	23	9.1	9.5	395	77	94	23.8
産婦人科	1,448	1,100	19,958	19,379	82	80	1,033	1,097	86	1,031	8,184	8,534	22	23	7.0	6.8	691	111	440	63.7
眼科	471	555	9,606	9,459	39	39	290	267	24	289	867	832	2	2	2.9	3.5	1	0	0	0.0
耳鼻いんこう科	2,005	2,014	14,480	12,826	59	53	559	598	47	552	4,828	4,785	13	13	7.4	7.0	217	42	82	37.8
リハビリテーション科	2	3	1,126	1,428	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0	0	0	0.0
精神科	377	331	11,359	10,762	59	55	202	201	17	240	9,518	9,052	26	25	23.7	21.0	63	19	55	87.3
放射線診断科	1,318	1,257	1,565	1,475	8	8	13	0	1	13	22	0	0	0	0.7	0.0	0	0	0	0.0
放射線治療科	46	49	4,934	4,821	25	25	47	58	4	45	990	1,080	3	3	19.7	17.7	2	0	2	100.0
歯科口腔外科	2,228	2,257	12,764	12,329	52	51	400	383	33	400	610	707	2	2	0.5	0.8	10	2	1	10.0
救急科	8,387	8,275	12,204	12,135	33	33	629	712	52	539	7,166	8,077	20	22	9.3	9.4	11,918	8,205	661	5.5
麻酔科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平成29年度 合計	36,876	36,708	280,043	276,284	1,148	1,137	16,239	15,947	1,353	16,275	189,348	196,307	519	538	9.9	10.5	23,871	12,599	5,403	22.6

平成29年度 病床利用率・・・81.8% 紹介率・・・82.6% 逆紹介率・・・73.8% 分娩件数・・・603件

平成28年度 病床利用率・・・84.8% 紹介率・・・95.3% 逆紹介率・・・78.6% 分娩件数・・・666件

平成29年度

診療科別患者数等管理数値

稼動額は、千円単位 収入単価は、円で表示

診療科	外来診療収入				入院診療収入				入外合計額				手術		心臓			
	診療収入		収入単価		診療収入		診療収入(室料差額除)		収入単価		当年度平均		前年度平均		当年度	前年度	当年度	前年度
	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度				
総合内科	26,796	23,668	12,772	13,705	21,105	28,346	19,858	27,556	62,840	97,028	47,901	52,013	3,992	4,334	0	0	0	0
糖尿病内分泌内科	180,999	188,439	15,420	14,256	250,003	257,829	238,395	244,277	42,540	42,476	431,003	446,269	35,917	37,189	0	0	2	4
血液内科	128,456	136,492	31,508	33,677	642,346	549,639	629,048	541,518	76,165	76,540	770,803	686,131	64,234	57,178	0	0	1	0
腎臓内科	122,894	101,031	19,622	16,808	262,118	301,901	250,750	290,173	49,419	51,051	385,012	402,933	32,084	33,578	82	78	6	10
膠原病リウマチ科	212,816	202,306	26,061	25,563	151,419	142,876	146,782	138,447	47,905	46,931	364,236	345,181	30,353	28,765	0	0	1	2
緩和ケア内科	3,136	2,869	6,999	7,338	415,117	397,996	363,921	346,572	48,170	47,586	418,253	400,865	34,854	33,405	0	0	0	0
呼吸器内科	239,062	267,050	19,309	21,905	786,552	834,958	742,543	787,249	52,454	51,495	1,025,615	1,102,008	85,468	91,834	2	1	3	1
消化器内科	412,811	319,747	17,269	13,748	1,150,494	1,207,091	1,092,548	1,150,605	53,948	54,415	1,563,305	1,526,839	130,275	127,237	3	1	3	3
循環器内科	229,657	215,632	13,319	14,105	3,071,154	2,984,192	3,038,133	2,950,781	203,097	192,409	3,300,811	3,199,824	275,068	266,652	27	23	1,675	1,563
神経内科	77,063	83,132	10,610	11,109	638,764	754,784	614,800	729,758	48,969	50,349	715,826	837,916	59,652	69,826	0	0	3	3
アレルギー科	58,230	53,182	8,866	8,837	21,929	20,393	20,986	19,666	48,580	54,028	80,159	73,575	6,680	6,131	0	0	0	0
小児科	169,544	171,151	10,925	11,295	298,619	321,218	291,493	315,121	50,344	56,231	468,163	492,369	39,014	41,031	0	0	0	0
外科	301,753	302,138	32,668	30,912	1,040,928	1,118,946	1,007,483	1,083,890	82,941	79,209	1,342,682	1,421,085	111,890	118,424	779	889	4	2
乳腺外科	324,295	299,489	34,755	33,089	222,181	204,857	212,455	196,696	81,557	90,062	546,476	504,346	45,540	42,029	256	255	0	0
呼吸器外科	45,413	35,710	27,981	21,881	87,594	101,745	85,259	99,865	121,625	131,574	133,007	137,455	11,084	11,455	67	72	0	0
心臓血管外科	21,749	20,749	10,092	10,679	918,900	992,383	912,659	895,078	243,636	213,827	940,649	923,132	78,387	76,928	230	236	78	55
脳神経外科	64,074	51,731	16,778	13,903	566,693	637,657	557,360	622,590	73,569	79,799	630,768	689,389	52,564	57,449	160	184	0	2
整形外科	178,074	177,573	7,605	7,628	1,680,322	1,593,370	1,633,704	1,545,067	77,729	72,348	1,858,396	1,770,943	154,866	147,579	1,324	1,305	0	2
形成外科	22,597	24,756	6,281	5,705	102,251	136,065	99,981	132,165	65,907	58,351	124,849	160,821	10,404	13,402	299	321	0	2
皮膚科	46,417	46,405	4,656	4,106	63,452	60,683	60,026	57,853	40,422	40,457	109,869	107,087	9,156	8,924	138	164	0	1
泌尿器科	219,896	217,657	16,621	15,630	600,744	586,590	573,535	561,662	68,670	67,540	820,640	804,247	68,387	67,021	730	682	0	1
産婦人科	156,199	137,597	7,826	7,100	657,268	714,639	632,208	686,663	77,249	80,462	813,467	852,237	67,789	71,020	404	444	1	0
眼科	71,555	70,500	7,449	7,453	68,526	65,139	66,995	63,317	77,272	76,102	140,080	135,639	11,673	11,303	371	346	0	0
耳鼻いんこう科	127,075	109,121	8,776	8,508	273,688	274,898	260,230	259,412	53,900	54,214	400,763	384,019	33,397	32,002	272	248	0	0
リハビリテーション科	3,966	5,361	3,522	3,754	0	0	0	0	0	0	3,966	5,361	330	447	0	0	0	0
精神科	76,528	65,815	6,737	6,115	362,645	347,272	356,453	339,339	37,450	37,488	439,173	413,087	36,598	34,424	378	350	0	0
放射線診断科	60,464	56,723	38,635	38,456	2,741	0	2,674	0	121,526	0	63,205	56,723	5,267	4,727	0	0	0	0
放射線治療科	92,232	89,752	18,693	18,617	52,311	62,184	50,629	59,559	51,140	55,147	144,542	151,936	12,045	12,661	0	0	0	0
歯科口腔外科	74,233	71,453	5,816	5,796	43,285	47,087	42,719	46,551	70,032	65,842	117,519	118,541	9,793	9,878	408	388	0	0
救急科	274,094	269,795	22,459	22,233	711,806	796,036	703,141	785,748	98,122	97,282	985,900	1,065,832	82,158	88,819	0	0	15	16
麻酔科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	1	-	-
平成29年度合計	4,022,080	3,817,025	14,362	13,816	15,164,955	15,450,776	14,706,770	14,977,178	77,671	76,295	19,187,036	19,267,801	1,598,920	1,605,650	5,930	5,988	1,792	1,667

※入外合計額の前年平均は平成28年度平均

単位/千円	人間ドック		健康診断		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
平成29年	2,273	164,252	9,797	72,615	12,070	236,867
平成28年	2,193	154,163	9,506	71,718	11,699	225,881

平成29年度 放射線科部業務実績(月別)

		2017												合計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般	胸部 人数	3,106	3,204	3,524	2,934	2,826	2,554	3,279	3,231	3,448	3,734	3,352	3,394	38,586
	腹部 人数	564	549	592	440	471	539	580	593	577	546	657	637	6,745
	骨部 人数	1,594	1,206	1,631	1,489	1,900	1,771	1,736	1,636	1,923	1,583	1,982	1,827	20,278
	MMG 人数	170	187	236	218	252	267	255	244	230	203	210	294	2,766
	骨塩定量 人数	136	185	158	164	167	156	203	177	162	151	153	199	2,011
	OP、ポータブル 人数	1,240	1,264	1,338	1,128	893	1,146	1,099	1,259	1,289	1,576	1,429	1,417	15,078
	その他 人数	183	127	126	123	133	150	143	138	121	45	64	66	1,419
	合計 人数	6,993	6,722	7,605	6,496	6,642	6,583	7,295	7,278	7,750	7,838	7,847	7,834	86,883
	血管造影検査 人数	190	204	210	177	169	159	179	185	191	193	208	204	2,269
	消化器造影透視検査 人数	122	144	205	209	281	204	274	243	263	228	257	267	2,697
造影	泌尿器造影透視検査 人数	58	59	60	64	48	53	42	50	48	44	48	58	632
	他透視造影 人数	58	62	67	71	45	59	47	36	38	46	32	56	617
	一般診療CT(2F) 人数	1,792	1,827	1,923	1,827	1,898	1,890	1,889	1,852	1,943	2,018	1,922	2,114	22,895
	救急CT 人数	815	922	953	961	960	850	970	838	1,003	1,119	894	932	11,217
CT	合計 人数	2,607	2,749	2,876	2,788	2,858	2,740	2,859	2,690	2,946	3,137	2,816	3,046	34,112
	頭頸部 人数	428	366	531	503	457	434	434	439	485	389	442	460	5,368
	その他 人数	461	575	521	468	482	482	472	465	451	437	431	520	5,765
MRI	合計 人数	889	941	1,052	971	939	916	906	904	936	826	873	980	11,133
	RI 人数	118	105	133	121	102	105	117	122	101	107	115	111	1,357
核医学	PET/CT 人数	84	98	98	81	86	73	81	90	87	87	80	85	1,030
	新規患者数 人数	25	28	33	22	29	14	30	27	19	32	18	24	301
治療	述べ照射件数 件数	653	576	789	648	732	499	581	686	773	561	631	552	7,681
	読影対象検査数(CT、MR、核医学)	3,698	3,893	4,159	3,961	3,985	3,834	3,963	3,806	4,070	4,157	3,884	4,222	47,632

平成29年度 臨床検査部業務実績

検査項目	月別実績												計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
検体検査	一般(ワラチ)	6,534	7,181	7,928	7,776	8,540	7,719	8,346	8,320	8,029	7,769	8,477	94,854
	血液	18,734	19,983	20,577	19,633	20,415	19,461	19,986	20,091	20,908	20,016	21,249	240,395
	血液凝固(ワラチ)	7,816	7,453	8,097	7,677	7,806	7,366	7,844	7,844	7,696	8,423	8,243	84,594
	生化学(ワラチ)	152,239	159,215	166,391	160,948	165,152	156,061	163,319	164,796	164,796	170,204	164,571	1,951,966
	免疫血清(ワラチ)	7,381	7,765	7,983	7,735	7,873	7,696	8,255	8,255	7,397	8,714	8,186	94,865
	一般細菌	1,363	1,505	1,648	1,541	1,654	1,521	1,483	1,635	1,635	1,968	1,713	19,250
	栄養試験	14	14	28	30	30	28	16	15	15	15	15	235
	抗酸菌	324	328	281	306	246	247	259	362	612	1,072	833	5,335
	迅速検査(ワラチ)	924	923	974	1,032	991	838	913	957	1,021	1,171	1,053	11,797
	血液ガス(ワラチ)	195,468	204,553	214,086	206,835	212,834	201,086	210,582	212,121	212,121	220,712	212,581	2,515,055
	合計	2,584	2,557	2,802	2,384	2,707	2,515	2,733	2,577	2,671	2,749	2,707	31,704
	心電図	7	6	15	20	25	25	8	7	6	3	14	130
	負荷心電図	104	103	114	104	99	109	119	98	100	89	101	98
	ホルター心電図	130	143	116	119	140	109	127	97	118	109	110	122
	血圧脈波検査	33	38	28	34	34	14	40	21	25	23	32	348
自律神経検査	333	378	418	412	418	380	387	370	366	333	348	4,552	
呼吸機能	5	7	6	6	8	5	7	3	3	4	4	3	
筋電図検査	46	61	64	52	70	50	49	61	57	48	72	68	
脳波	69	78	79	83	84	70	83	68	82	62	73	87	
神経生理検査	55	30	38	54	55	49	53	46	68	46	42	69	
OAE	9	9	6	9	25	31	18	14	23	9	15	17	
体流量測定	261	244	253	263	251	219	303	296	432	524	622	658	
耳鼻科検査	861	756	824	683	708	634	689	679	696	692	686	713	
心エコー	81	947	1,015	990	1,014	966	993	974	985	874	932	10,84	
その他エコー	5,342	5,507	5,935	5,352	5,769	5,280	5,755	5,464	5,778	5,710	5,914	62,322	
心カテ	589	616	680	573	598	531	567	568	578	514	512	596	
合計	31	19	20	32	20	26	37	28	27	25	32	25	
組織診断	342	390	452	419	413	366	411	431	412	413	372	466	
迅速診断	66	68	70	68	79	55	57	63	79	56	60	79	
細胞診断	2	3	0	0	2	2	0	2	2	5	3	2	
その他	1,090	1,096	1,222	1,092	1,098	981	1,072	1,092	1,099	1,013	969	1,149	
合計	658	644	708	728	743	707	751	683	712	639	678	7,931	
血液型	570	524	589	574	615	618	639	575	589	628	544	7,048	
不規則抗体	362	349	325	313	312	342	359	346	317	344	296	4,007	
クロスマッチ	44	33	35	57	42	44	54	35	45	34	33	37	
その他	1,634	1,550	1,657	1,672	1,712	1,711	1,803	1,639	1,691	1,718	1,512	16,440	
合計	654	470	504	498	486	562	524	512	630	900	470	608	
If-RBC	675	255	186	258	96	165	135	153	231	585	333	342	
FFP	1,030	845	975	775	740	905	860	865	610	890	455	630	
If-PC	2	2	4	4	0	2	4	0	2	0	0	3	
自己血	327	338	340	342	342	331	331	295	339	324	307	343	
合計	63	90	69	90	73	78	64	66	72	84	96	103	
モストグラフ	70	97	87	87	93	92	74	74	81	90	102	118	
スライドメトリ	11	15	15	15	11	13	15	12	11	6	10	138	
可逆性検査	14	24	30	25	13	18	23	22	19	13	23	28	
フルクテスト	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
精密機能	485	565	541	565	526	533	507	469	522	517	532	602	
合計	2,438	2,678	2,462	2,514	2,422	2,442	2,356	2,450	2,870	3,335	2,710	26,615	
時間外院内検査	5,628	5,741	6,110	5,546	6,023	5,761	5,955	5,667	6,001	5,642	5,642	61,411	
外来採血患者	3,478	3,513	3,900	3,581	3,447	3,216	3,528	3,337	3,368	3,384	3,574	37,889	
入院患者採血管理備数	21	32	25	19	34	19	19	26	24	23	29	16	
尿薬呼気試験	64,440	71,001	72,211	67,942	73,337	69,849	70,935	65,986	71,607	69,923	74,473	77,331	
院内検査業務委託	11,376	12,925	12,487	12,064	10,835	11,963	11,142	11,590	12,940	10,689	10,789	12,471	
外注検査業務委託													
委託業務													
診療連携													

心臓カテーター検査に2~3名、耳鼻科に1名、アレルギーセンターに1名、それぞれ検査技師を派遣

中央部門業務報告(処方箋枚数)

平成29年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入院 処方	12,792	13,575	13,933	13,085	13,977	12,814	14,007	13,591	14,347	14,116	13,557	14,477	164,271
入院 注射	12,397	11,920	12,420	11,954	11,734	11,649	11,350	11,136	12,141	13,480	12,477	12,755	145,413
外来 処方	32	44	42	45	43	39	44	46	46	43	56	73	553
外来 時間外処方	576	558	601	734	758	637	620	535	698	814	651	628	7,810
外来 注射	2,154	2,387	2,412	2,388	2,253	2,402	2,144	2,498	2,271	2,079	1,956	2,124	27,068
院外処方箋	10,296	10,759	11,149	10,523	10,975	10,462	10,918	10,463	11,193	10,505	10,278	11,480	129,001
抗がん剤調製件数	527	561	586	556	644	613	625	612	528	550	527	552	6,881
TPN調製件数	23	7	42	31	19	5	16	86	51	45	46	25	396
薬剤管理指導算定件数	1,858	2,070	2,070	1,880	2,064	1,745	1,946	1,915	1,888	2,003	2,020	2,118	23,577
薬剤管理指導麻薬加算	25	32	31	21	32	15	20	22	24	24	25	30	301
退院時指導算定件数	525	586	631	524	601	588	645	663	740	623	719	804	7,649
がん指導管理料3件数	83	80	90	45	67	103	100	102	93	92	73	97	1,025

中央部門業務報告（栄養課）

平成29年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般食	34,176 件数	33,746	34,268	35,546	35,049	34,455	36,134	33,434	34,615	37,548	35,894	37,651	422,516
治療食	9,602 件数	8,059	9,004	8,074	7,461	8,046	9,742	8,874	8,561	8,938	9,571	10,542	106,474
調乳	147 件数	144	201	301	283	146	262	308	190	264	246	242	2,734
栄養相談	296 件数	284	327	284	315	287	320	311	348	289	309	371	3,741
合計	44,221 件数	42,233	43,800	44,205	43,108	42,934	46,458	42,927	43,714	47,039	46,020	48,806	535,465

中央部門業務報告(リハビリテーションシヨン科部)

平成29年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
リ ハ ビ リ	理学療法	3,280	3,268	3,502	3,553	3,440	3,261	3,332	3,192	3,328	3,678	3,436	3,855	41,125
	作業療法	1,561	1,516	1,602	1,537	1,406	1,359	1,465	1,465	1,651	1,648	1,500	1,787	18,497
	言語聴覚療法	550	785	869	800	677	702	815	851	760	859	830	986	9,484
	合計	5,391	5,569	5,973	5,890	5,523	5,322	5,612	5,508	5,739	6,185	5,766	6,628	69,106

中央部門業務報告(内視鏡室)

	2015年度	2016年度	2017年度
上部消化管内視鏡	5,187	5,399	5,513
(内ドック件数)	1,572	1,812	1,942
下部消化管内視鏡	2,429	2,308	2,424
(内ドック件数)	134	137	146
気管支鏡	277	250	209
ERCP	358	350	445

中央部門業務報告（透析室）

平成29年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
透析	血液浄化療法 件数	230	229	266	196	220	256	284	253	262	301	262	285	3,044

中央業務報告（手術室）

平成29年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
全身麻酔	317	339	362	339	380	380	388	372	316	340	339	353	4,225
局所麻酔	88	118	109	105	127	104	125	121	109	116	115	129	1,366
脊椎麻酔	18	15	23	9	20	20	28	25	16	19	22	20	235
脊椎・硬膜外併用	13	4	7	9	8	5	7	9	15	10	8	9	104
合計	436	476	501	462	535	509	548	527	456	485	484	511	5,930

損益計算書（平成29年度）

収 益	予算(A)	29年決算(B)	28年決算(C)	予算差引額(B-A)	昨年度比(B-C)	対昨年度増減率
みなと赤十字病院事業収益	21,147,261,000	20,109,485,762	20,153,199,612	-1,037,775,238	-43,713,850	-0.22%
医療収益	20,419,711,000	19,369,090,846	19,428,838,962	-1,050,620,154	-59,748,116	-0.31%
入院収益	15,769,343,000	14,729,902,757	14,944,765,012	-1,039,440,243	-214,862,255	-1.44%
患者延べ数(人)	198,300	189,348	196,307	-8,952	-6,959	-3.54%
患者1日平均(人)	543	519	538	-25	-19	-3.54%
診療単価(円)	79,523	77,793	76,130	-1,730	1,663	2.18%
病床利用率(%)	85.69%	81.82%	84.83%	-3.87%	-3.01%	-3.54%
平均在院数(日)		9.90	10.50		-0.60	-5.71%
外来収益	3,825,826,000	3,890,118,351	3,718,767,107	64,292,351	171,351,244	4.61%
患者延べ数(人)	274,657	280,043	276,284	5,386	3,759	1.36%
患者1日平均(人)	1,126	1,148	1,137	22	11	0.95%
診療単価(円)	13,929	13,891	13,460	-38	431	3.20%
室料差額収益	466,722,000	440,894,500	459,954,630	-25,827,500	-19,060,130	-4.14%
保健予防活動収益	303,649,000	260,536,353	254,208,584	-43,112,647	6,327,769	2.49%
受託検査・施設利用収益	7,427,000	7,107,350	7,050,900	-319,650	56,450	
その他の医療収益	109,840,000	97,897,288	102,037,362	-11,942,712	-4,140,074	-4.06%
保険等査定減	-63,096,000	-57,365,753	-57,944,633	5,730,247	578,880	-1.00%
医療外収益(医療社会事業収益含む)	719,239,000	730,919,249	716,910,276	11,680,249	14,008,973	1.95%
受取利息	550,000	0	972,460	-550,000	-972,460	-100.00%
本部繰入金	300,000	225,708	144,508	-74,292	81,200	56.19%
他会計繰入金	0	0	0	0	0	
運営費補助金等収益	403,830,000	387,483,928	408,716,826	-16,346,072	-21,232,898	-5.20%
施設設備費補助金等収益	27,513,000	27,419,196	47,474,391	-93,804	-20,055,195	-42.24%
患者外給食収益	11,000	0	0	-11,000	0	
その他の医療外収益	287,035,000	315,790,417	259,602,091	28,755,417	56,188,326	21.64%
特別利益	8,311,000	9,475,667	7,450,374	1,164,667	2,025,293	27.18%
固定資産売却益	0	32,675	0	32,675	32,675	
貸倒引当金戻入益	0	0	0	0	0	
その他前期損益修正益	8,311,000	9,324,054	5,005,563	1,013,054	4,318,491	
その他特別利益	0	118,938	2,444,811	118,938	-2,325,873	-95.14%

費 用	予算(A)	29年決算(B)	28年決算(C)	予算差引額(B-A)	昨年度比(B-C)	昨年度比(B-C)
みなと赤十字病院事業費用	21,601,243,000	21,072,247,838	20,337,033,921	-528,995,162	735,213,917	3.62%
医療費用	20,393,939,000	20,101,556,847	19,643,543,613	-292,382,153	458,013,234	2.33%
材料費	5,554,162,000	5,626,488,057	5,327,038,137	72,326,057	299,449,920	5.62%
薬品費	1,948,040,000	2,042,098,302	1,908,936,000	94,058,302	133,162,302	6.98%
診療材料費	3,326,371,000	3,338,427,821	3,164,271,910	12,056,821	174,155,911	5.50%
給食材料費	165,400,000	152,202,232	157,541,574	-13,197,768	-5,339,342	-3.39%
医療消耗品費	104,141,000	85,249,203	86,663,451	-18,891,797	-1,414,248	-1.63%
棚卸減耗損	10,210,000	8,510,499	9,625,202	-1,699,501	-1,114,703	-11.58%
給与費	10,116,057,000	10,101,303,213	9,857,203,500	-14,753,787	244,099,713	2.48%
委託費	1,869,039,000	1,845,336,790	1,840,320,428	-23,702,210	5,016,362	0.27%
設備関係費	1,958,371,000	1,552,722,496	1,723,623,399	-405,648,504	-170,900,903	-9.92%
減価償却費	822,438,000	494,427,501	602,068,482	-328,010,499	-107,640,981	-17.88%
機器賃借料	10,717,000	12,109,933	17,499,027	1,392,933	-5,389,094	-30.80%
指定管理者負担金他	668,912,000	674,053,720	671,960,021	5,141,720	2,093,699	0.31%
修繕費	159,950,000	144,373,671	145,031,699	-15,576,329	-658,028	-0.45%
機器保守料	295,396,000	227,204,566	286,288,953	-68,191,434	-59,084,387	-20.64%
その他	958,000	553,105	775,217	-404,895	-222,112	-28.65%
研究研修費	56,150,000	58,759,655	59,781,238	2,609,655	-1,021,583	-1.71%
経費	840,160,000	916,946,636	835,576,911	76,786,636	81,369,725	9.74%
通信費	20,000,000	20,876,268	19,024,465	876,268	1,851,803	9.73%
消耗品費	85,000,000	85,694,557	78,915,678	694,557	6,778,879	8.59%
水道光熱費	383,000,000	409,744,125	378,213,534	26,744,125	31,530,591	8.34%
賃借料	160,000,000	166,022,383	160,819,949	6,022,383	5,202,434	3.23%
租税公課	20,748,000	27,036,746	23,477,033	6,288,746	3,559,713	15.16%
その他	171,412,000	207,572,557	175,126,252	36,160,557	32,446,305	18.53%
医療外費用(医療奉仕費用含む)	662,305,000	457,291,685	539,292,097	-205,013,315	-82,000,412	-15.21%
支払利息	18,138,000	14,471,058	17,293,069	-3,666,942	-2,822,011	-16.32%
患者外給食用材料費	1,118,000	1,120,428	1,110,267	2,428	10,161	0.92%
看護師等委託養成費	30,600,000	30,000,000	28,200,000	-600,000	1,800,000	6.38%
診療費減価額	4,901,000	1,087,310	12,646,930	-3,813,690	-11,559,620	-91.40%
本部繰出金	4,020,000	3,885,767	3,857,022	-134,233	28,745	0.75%
他会計繰出金	176,000	4,636,164	4,727,164	4,460,164	-91,000	-1.93%
退職給付債務変更時差異	107,062,000	107,061,691	107,061,691	-309	0	0.00%
その他医療外費用	496,290,000	295,029,267	364,395,954	-201,260,733	-69,366,687	-19.04%
特別損失	544,999,000	513,399,306	154,198,211	-31,599,694	359,201,095	232.95%
固定資産売却損	0	0	0	0	0	
固定資産除却損	63,757,000	47,509,132	1,058,009	-16,247,868	46,451,123	4390.43%
前期損益修正損	481,242,000	465,290,174	153,005,182	-15,951,826	312,284,992	
その他特別損失	0	600,000	135,020	600,000	464,980	344.38%
法人税等	0	0	0	0	0	

経常損益(特別収支を除いたもの)	82,706,000	-458,838,437	-37,086,472	-541,544,437	-421,751,965	1137.21%
医療損益	25,772,000	-732,466,001	-214,704,651	-758,238,001	-517,761,350	241.15%
純損益	-453,982,000	-962,762,076	-183,834,309	-508,780,076	-778,927,767	423.71%

貸 借 対 照 表

平成30年3月31日

(施設名) 横浜市立みなと赤十字病院

(単位：円)

資 産 の 部			負 債 及 び 基 金 の 部		
1. 流動資産			1. 流動負債		
現金		7,731,258	買掛金	1,229,999,826	
預金		1,625,244,850	未払金	1,484,281,271	
医業未収金	3,403,067,517		短期借入金	637,600,000	
貸倒引当金	41,290,932	3,361,776,585	未払費用	91,708,543	
未収金		69,436,325	未払法人税等	0	
有価証券		0	前受金	75,900,274	
医薬品		59,404,650	預り金	9,692,258	
診療材料		0	職員預り金	94,442,154	
給食材料		1,957,035	前受収益	0	
貯蔵品		58,325	賞与引当金	392,430,647	
前渡金		0	その他の流動負債	480,774,813	
前払費用		58,513,294	流動負債合計		4,496,829,786
未収収益		3,282,332			
短期貸付金		0	2. 固定負債		
繰延税金資産		0	長期借入金	1,476,800,000	
その他の流動資産		199,479,218	長期未払金	181,850,464	
流動資産合計		5,386,883,872	預り出資金	0	
			退職交付受入金	0	
2. 固定資産			退職給付引当金	3,600,895,611	
(1) 有形固定資産			医療訴訟引当金	0	
建物	128,259,810		長期前受補助金等	222,601,286	
建物減価償却累計額	21,517,268	106,742,542	その他の固定負債	0	
建物付属設備	684,017,294		固定負債合計		5,482,147,361
建物付属設備減価償却累計額	266,647,475	417,369,819			
構築物	20,522,740		負債合計		9,978,977,147
構築物減価償却累計額	9,228,982	11,293,758			
医療用器械備品	6,857,190,090		3. 基本金		15,986,453
医療用器械備品減価償却累計額	5,581,718,743	1,275,471,347			
その他の器械備品	496,106,885		4. 基金積立金		
その他の器械備品減価償却累計額	288,843,163	207,263,722	本社交付金	0	
車両	21,121,030		支部繰入金	0	
車両減価償却累計額	19,258,843	1,862,187	その他の繰入金	0	
放射性同位元素	0		補助金	0	
放射性同位元素減価償却累計額	0	0	寄付金	54,040,000	
その他の有形固定資産	55,371,500		固定資産再評価益(損)金	2,566,395	
その他の有形固定資産減価償却累計額	5,872,653	49,498,847	固定資産処分益(損)金	0	
土地		0	基金積立金合計		56,606,395
建設仮勘定		0			
有形固定資産合計		2,069,502,222	5. 利益剰余金		
			利益積立金	29,130,000	
(2) 無形固定資産			特別積立金	0	
借地権		0	当期末処分利益(損失)	-593,284,730	
ソフトウェア	44,909,765		利益剰余金合計		-564,154,730
その他の無形固定資産	83,125				
無形固定資産合計		44,992,890	6. 有価証券評価差額金		0
(3) その他の資産			基金合計		-491,561,882
有価証券		0			
長期貸付金		108,050,000			
預金		0			
長期未収金		0			
長期前払費用		2,943,560			
施設整備準備積立金		0			
病院建物建設資金出資金		658,929,188			
病院財政調整事業資金出資金		320,411,370			
出資金		217,850			
退職拠出金		895,384,783			
預託金		99,530			
繰延税金資産		0			
その他の固定資産		0			
その他の資産合計		1,986,036,281			
固定資産合計		4,100,531,393			
資産合計		9,487,415,265	負債及び基金合計		9,487,415,265

平成29年度キャッシュ・フロー計算書

(単位:円)

	金額
1. 業務活動によるキャッシュ・フロー	
税引前当期純利益	-962,762,076
減価償却費	502,146,216
所有有形固定資産減価償却費	387,290,684
リース有形固定資産減価償却費	97,720,870
所有無形固定資産減価償却費	17,134,662
リース無形固定資産減価償却費	0
長期前払費用減価償却費	1,092,000
貸倒引当金の増減	-5,740,705
賞与引当金の増減	27,831,487
医療訴訟引当金の増減	0
退職給付引当金の増減	331,263,648
退職拠出金の増減	-148,703,302
退職交付受入金の増減	0
その他の引当金の増減	0
施設設備補助金等収益	-35,182,857
受取利息	0
支払利息	14,471,058
有形固定資産売却損	0
有形固定資産除却損	47,493,198
無形固定資産売却損	0
無形固定資産除却損	15,934
前期損益修正損	0
固定資産取得価額修正	0
減価償却費修正	0
その他	0
その他特別損失	7,539,800
有形固定資産売却益	-32,675
無形固定資産売却益	0
前期損益修正益	-3,019,215
固定資産取得価額修正	0
減価償却費修正	-3,019,215
その他	0
その他特別利益	0
医業未収金の増減	-174,271,824
未収金の増減	29,635,497
医薬品の増減	10,193,614
診療材料の増減	0
給食用材料の増減	812,082
貯蔵品の増減	67,367
前渡金の増減	0
前払費用の増減	-29,522,324
未収収益の増減	216,625
その他流動資産の増減	-6,607,101
買掛金の増減	47,190,236
未払金の増減	-48,763,934
未払費用の増減	3,088,505
前受金の増減	50,694,692
預り金の増減	1,452,168
職員預り金の増減	28,050,935
前受収益の増減	0
その他の流動負債の増減	303,895,682
その他	30,146,426
小計	22,691,157
利息の受取額	0
利息の支払額	-14,471,058
法人税等の支払額	0
業務活動によるキャッシュ・フロー(A)	8,220,099

2. 投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	0
定期預金の払戻による収入	0
有価証券の取得による支出	0
有価証券の償還等による収入	0
所有有形固定資産の取得による支出	-215,383,425
所有有形固定資産の売却による収入	50,000
所有無形固定資産の取得による支出	-30,255,174
所有無形固定資産の売却による収入	0
長期前払費用の取得による支出	-358,628
施設設備補助金等の受入による収入	3,448,498
短期貸付金の増減	0
長期貸付による支出	-31,500,000
長期貸付金の回収による収入	4,450,000
病院建物建設資金出資金の払込による支出	-38,832,384
病院建物建設資金出資金の返還による収入	0
病院財政調整事業資金出資金の払込による支出	-19,428,838
病院財政調整事業資金出資金の返還による収入	0
出資金の払込による支出	0
出資金の返還による収入	0
預託金の預入による支出	-50,000
預託金の払戻による収入	10,000
その他の固定資産による支出	0
その他の固定資産による収入	0
その他	111,888
投資活動によるキャッシュ・フロー(B)	-327,738,063
3. 財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の増減	-200,000,000
長期借入による収入	100,000,000
長期借入金の返済による支出	-337,600,000
リース債務未払金の返済による支出	-130,507,415
預り出資金の受入による収入	0
預り出資金の払戻による支出	0
その他の固定負債による支出	0
その他の固定負債による収入	0
財務活動によるキャッシュ・フロー(C)	-568,107,415
4. 現金及び現金同等物の増加額(A+B+C)	-887,625,379
5. 現金及び現金同等物期首残高	2,520,601,487
6. 現金及び現金同等物期末残高	1,632,976,108

※ 病院収益合計	20,109,485,762
※ 病院費用合計	21,072,247,838
※ 法人税等計	0